週刊 YEARBOOK

1968
昭和43年

日録20世紀

6|17
平成9年6月17日発行
(毎週1回発行)第1巻第17号
¥560
講談社

「日大全共闘」史上最強のバリケードスト
「あしたのジョー」5年4ヵ月の連載開始!
戦車に蹂躙された「プラハの春」229日

「3億円事件」のミステリー

雷雨の中に現金輸送車は消えた！
捜査員延べ17万人、対象者10万人以上
「3億円事件」のミステリー

▲44年4月9日、小金井市の団地の駐車場で発見された逃走用カローラとジュラルミンケース。 読売新聞社

その日の朝、東京は時ならぬ雷雨に見舞われた。一二月一〇日火曜日午前九時二〇分すぎ、黒のセドリックに近づく一台の「白バイ」の影があった。世に言う三億円事件の発端である。奪われた現金の額、捜査人員・対象者数……。すべてが空前のスケールの大事件は、今も解き明かせぬ謎に包まれている。

ほんの数分で終わった史上最大の現金強奪劇

「日本信託銀行の方ですね、今、緊急連絡があり、お宅の支店長の巣鴨の家が爆破されました。この車にも爆弾が仕掛けられているかもしれません。シートの下を見てください」

東京・府中市の府中刑務所脇を走行中の現金輸送車、黒のセドリックは、「白バイ」に乗り、交通警官の制服にマイクつきの白ヘルメットをかぶった若い「警官」に停止を求められ、こう告げられた。

昭和四三年一二月一〇日午前九時二一分頃のことだ。輸送車には同行国分寺支店の関谷量一さん（三二）ら四人が乗っていた。

「警官」のセリフは、きわめてつじつまが合っていた。「支店長の自宅を爆破する」という脅迫状が、事件の四日前に届けられていたからである。四人はあわてて、車の点検を始めた。と、「警官」が突然「あったぞ」と叫び、ほぼ同時に車のボンネット方向から白い煙と青い炎が上がっているのが見えた。「警官」がもう一度叫んだ。「危ない、逃げろ！」。

近くの塀の陰などに待避した四人を尻目に、「白バイ」を置いたまま、警官は車を運転して走り去った。しかし四人は「勇敢な警官が爆弾から車を遠ざけた」と思っていたという。炎や煙がおさまった頃、戻ってみると爆弾だと思ったのは発煙筒、「白バイ」はヤマハのオートバイを白く塗ったものだった。当時の白バイはホンダ製だったのである。

▲府中刑務所脇の現金強奪現場。数日前に盗まれたものと判明したオートバイは、青から白に塗りかえられ、タオル掛けを利用して赤灯を取り付けるなど、たくみに「白バイ」に偽装されていた。 朝日新聞社

◎表紙　12月21日に発表された犯人のモンタージュ写真。写真の信頼性や捜査方法が問題化し、昭和49年に正式に破棄された。 共同通信社

▲「白バイ」の赤灯は、写真のストップランプを改造したものだった。 共同通信社

▲「白バイ」に取り付けられたトランジスタメガフォン。 共同通信社

▶犯人が爆弾と偽った発煙筒。製造四〇〇〇本のうち、八二本のみ確認。 共同通信社

▶明治クッキーの空き缶。白く塗って、本物の白バイの書類入れに似せた。 共同通信社

▲国分寺支店への脅迫状の文字に使用された雑誌。 共同通信社

異変に気がつき、府中刑務所正門の監視所から一一〇番通報されたのは九時三一分。事件発生からすでに一〇分が経過していた。

現場は刑務所のすぐ脇、配送先の東芝府中工場まであと二〇〇メートルという場所。普段から人通りが少ないが、この日は雷をともなう雨で一層人影が少なかった。

犯人は警官の制服のまま、悠々と現金の詰まった三個のジュラルミンケースを輸送車ごと持ち去ったのである。持ち去られたのは東芝府中工場の従業員、四五二五人分の年末ボーナス資金、約三億円、正確に言えば二億九四三〇万七五〇〇円だった。このうちナンバーがわかっていたのは五百円札の二〇〇〇枚だけ。

世に言う三億円事件の犯行は、このようにほんの数分で終わっている。

周知のように犯人はついに判明せず、刑事事件の時効は七年後の昭和五〇年一二月一〇日に、保険会社の請求権の時効も二〇年後に成立し、今にいたっている(ただし、犯人が海外に逃亡していた場合は、その期間の時効は中断される)。

①午前9時15分、輸送車が出発。犯人は濃緑のカローラで尾行。
②第3現場
犯人は尾行用のカローラを乗り捨て、「白バイ」に乗り替える。
③第1現場
午前9時21分頃、輸送車襲撃。
④第2現場
午前10時20分、輸送車発見。犯人はすでに濃紺のカローラに乗り替え、逃走していた。
⑤第4現場
44年4月9日、逃走用のカローラと空のジュラルミンケースを発見。

日本信託銀行国分寺支店 / 公団本町住宅 / 国分寺 / 武蔵小金井 / 府中街道 / 現金輸送車 / 犯人逃走経路 / 府中刑務所 / 東芝府中工場

「3億円事件」要図

広げすぎた捜査範囲にさまざまなトラブルが

事情が異なるので単純な比較はできないが、最近の電機メーカーのボーナスは一人平均七〇万円前後。つまり当時の三億円は現在の三〇億円をゆうに超える莫大な金額。それだけに、警察の捜査態勢が異例の規模になったのも当然だった。

事件発生から二〇分余りで、都内全域を網羅する緊急配備指令が出された。一万人を超す警官が動員され、要所要所で徹底的な検問が行われた。血眼でセドリックを探していたのである。だが、その時間には、すでに黒のセドリックは乗り捨てられ、犯人は別の車で逃走中だった。

輸送車発見の時点で、「セドリックを発見せよ」という指令は「全車両を検問せよ」に切り替えられたが、それまでにほぼ一時間が経過。さらに、ジュラルミンケースの大きさを誤認し、車のトランクのチェックを怠っていた。三個のケースはトランクに入りきらないから、シートに積んでいるはずという思いこみがあった。しかしケースは実際にはトランクに納まるサイズだったのだ。こうしていくつかの初動捜査のミスが指摘された。

それでもなお、捜査当局では、解決は時間の問題とする楽観論が支配的だった。というのは、バイク、トランジスタメガフォンなど多数の遺留品が残されていたからである。遺留品の数は六〇点以上。中には発煙筒や、脅迫状に使われた雑誌「電波科学」「近代映画」などまで含まれていた。しかし、それらを追っても、バイクをはじめとする盗品や大量消費財が多く、犯人には結びつかなかった。後になって、多数の遺留品を残したのは犯人の陽動作戦ではないか、という声すら上がったのである。

時効までに投入された捜査員は延べ一七万人以上。また、事件から四半世紀後の「朝日新聞」(平成六年八月八日付)は「捜査対象者は一〇万人を超えた」と書いた。

三億円には保険がかけられ、当面の被害者がなく、鮮やかな手口だったので快哉を叫んだ人も多かった。しかし、空前の捜査網ゆえのトラブルもまた、多発した。事件から約一年後、一人の男性が有力容疑者として些細な別件で逮捕される。マスコミはいずれも犯人扱いで、一面トップ、写真・実名入りで大々的に報道した。プライバシーも暴きつくされた。しかしわずか二四時間後、男性はアリバイが成立し釈放となった。

だが、男性は"シロ"と断定されてもなお、マスコミに追いまわされ、最近でも、一二月を迎えるたびに取材攻勢を受けている。ちなみにこの誤認逮捕を報じた記事や縮刷版は今、多くの公共図書館などで閲覧禁止の処置がとられている。

▲強奪現場から約1.5キロ離れた、旧国分寺史跡内で発見された現金輸送車。 読売新聞社

雷雨の中に現金輸送車は消えた! 捜査員延べ17万人、対象者10万人以上 「3億円事件」のミステリー

犯罪史に残る大強奪事件

●1963年8月8日(イギリス)
大列車強盗事件

◀大列車強盗事件の主犯R・ビッグス。 WWP

武装した15人が夜行郵便列車から現金250万ポンド(約25億円)を奪って逃走。信号灯を切り替え列車を止める巧妙な手口や金額の大きさから、犯罪史に残る大列車強盗事件と言われた。主犯ビッグスは懲役30年の判決を受けた後に、脱走。

●1976年7月19日(フランス)
5000万フラン金庫破り事件

南仏ニースの銀行の金庫室に、下水道から8メートルのトンネルを掘って侵入。5000万フラン(約30億円)相当の現金・宝石類を奪った。主犯スパジアリは、逮捕後、裁判所2階の窓から脱走。

●1983年11月26日(イギリス)
3000万ポンド金塊強奪事件

貴金属運送会社のロンドン郊外にある倉庫に強盗が押し入り、時価3000万ポンド(約110億円)の金塊を奪って逃走。翌月に逮捕された強盗団の中には、倉庫警備員も含まれていた。金額は英国史上最高。

●昭和61年11月25日(日本)
有楽町現金輸送車襲撃事件

三菱銀行(当時)の有楽町支店前にあった日本通運の輸送車をフランス人、アルジェリア人を含む4人組がモデルガンと目つぶしで襲い、現金3億3300万円を強奪。日本犯罪史上、被害額は最高。

●昭和63年12月30日(日本)
太陽神戸銀行現金輸送車襲撃事件

神戸市須磨区の太陽神戸銀行(当時)の現金3億2250万円を積んだ輸送車が、キーをつけたまま運転手が車を離れたすきに、中年の男に乗り逃げされた。エンジンや金庫の鍵の管理がずさんだったことが問題になり、輸送業務を担当していた日本通運では運転手が処分された

学生10万人の素朴な怒りが爆発！

「日大全共闘」

——史上最強の“バリケードスト”244日

▲学内を占拠したバリケードは、やがて、「（パリ5月革命の）カルチェラタンを！」のかけ声とともに、街頭にまで進出した。6月21日、御茶ノ水駅付近で。　毎日新聞社

「全共闘」——それは、六〇年代末、全国の学園に燃え盛った学生反乱の代名詞である。セクトもノンセクトも構わず、参加する気のあるものだけが自由に参加できる、まったく新しい学生運動のスタイル。昭和四三年春、「二〇億円の使途不明金」に対する日大学生の怒りの爆発こそ、この「全共闘」誕生の狼煙であった。

学生の街を揺るがす「学生服」姿の全共闘

「雲霞のように」という表現が大げさでなかった。見渡すかぎりの人、人、人。昭和四三年五月二一日、東京・神田三崎町の白山通りは、怒りに燃えた日本大学の学生によって埋めつくされた。発端は国税当局の発表を報じた、たったひとつのベタ記事だった。「日大には過去五年間に約二〇億円にのぼる使途不明金がある」（四月一五日付）。

「当時の日大は、定員の数倍も水増し入学させたうえに、教室の椅子すらたりなかった。学生課に『席がない』と言うと、『そのうち（出席者が減れば）座れるよ』だからね。しかも学生の扱いは幼稚園並み。こんな鬱積した不満に、“授業料までチョロまかすのか。上等じゃないの”という素朴な怒りが加わり、スクラムの組み方さえ知らない学生まで巻きこむことになった」（当時日大全共闘だったノンフィクション作家の橋本克彦氏）

大学に反抗したらただちに処分、あるいは右翼・体育会系学生によるリンチが常識という体質で、「全学連が一人もいない日大」（当時の日大会頭・古田重二良）だけに、抗議活動も、当初はわずかの人数で始められた。だが、またたく間にその数は数千人に膨れ上がっていく。集会が開かれるたびに参加者が倍々ゲームのようにふえていった。「恐怖政治」の重石をみずから取り去り、自信を取り戻した一〇万の日大生たちは、我先にデモの隊列に加わったのだ。当初は学生運動につきもののセクトも表に出なかった。それどころか「活動家」とは水と油の学生服姿すら見られたのである。

五月二七日、三崎町の経済学部前に五〇〇〇人が集まり、理事総退陣、経理の公開などのスローガンを掲げ、「日大全学共闘会議」（秋田明大議長＝二一）が結成された。「ポツダム自治会」と言われた全員参加の方式でなく、参加する気のあるものだけが自由に参加できる、まったく新しい形の学生運動の組織形態だった。当時経済学部四年生だった秋田は、特にセクト色もなく、温厚なまとめ役として議長に選任され、全国にその名を知られることになる。

東大と並ぶ“全国学園闘争の天王山”と言われた闘争の火蓋が、こうして切って落とされたのだ。

「大衆団交」で全面勝利 一転、政治闘争の渦中に

わずかな人数のデモに始まった日大闘争が、エスカレートしたのは大学側の“反応”によるところも大きかった。

「大学側はそれまでのやり方をもっと大がかりに繰り返しました。体育会系学生を中心に、木刀やチェーン、はては日本刀、砲丸まで持たせて全共闘に襲いかかった。六月一一日の集会には、頭上に鉄製のゴミ箱が投げつけられ、肩を直撃さ

▲11月26日、東京・練馬の日大芸術学部に導入された機動隊。“最強”を誇った芸術学部のバリケードが撤去されたのは、44年2月9日。バリスト出現から244日目だった。　朝日新聞社

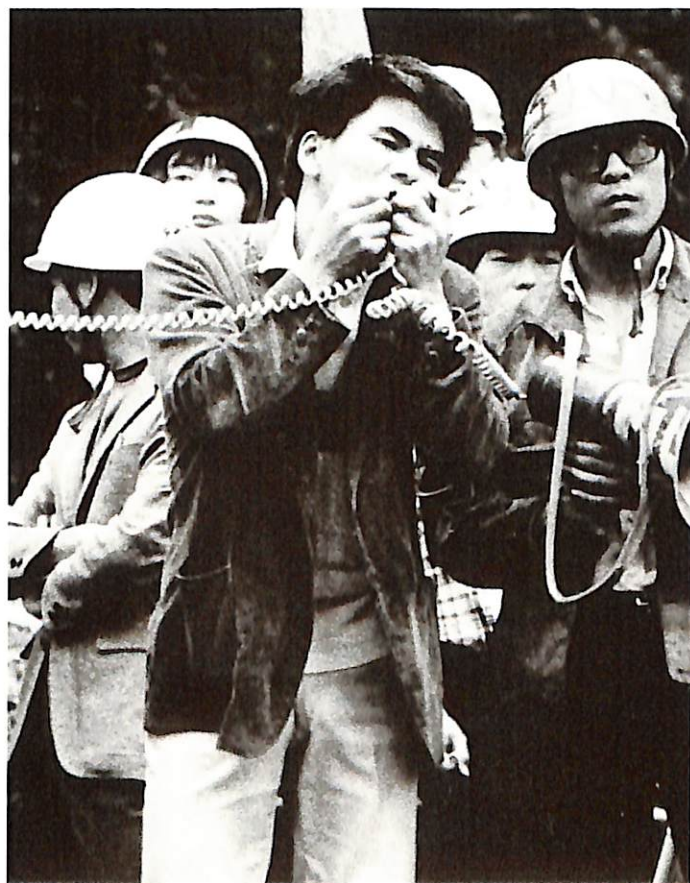
▲9月30日、東京・両国の日大講堂で12時間にわたって行われた「大衆団交」。古田会頭(中央)は学生側に謝罪、経理の全面公開などの確約書に署名した。 時事通信社

れた学生もいた。機動隊が現れた時、右翼を捕まえに来たと思って拍手で迎えた学生までいたくらいです。ところが、自分を弾圧しに来たと知って、悔し涙を流して抵抗する仲間も大勢いた」(理工学部闘争委員長だった佐久間順三氏)

大学側のこうした対応がますます学生を全共闘側に向かわせ、この日を境に日大全共闘はヘルメットをかぶることになった。そして同日、法学部を皮切りに、学生運動史上最強と言われたバリケードストが出現するまでにいたるのである。

九月三〇日、日大闘争は一気に最大の山場を迎える。二万人とも三万人とも言われる学生が理事者側を取り囲む「大衆団交」が開かれ、ついに大学側を全面屈伏させ、要求を認めさせた。

「建物が崩壊する危険があるので、三階の学友は下に降りてほしい」全共闘リーダーが再三にわたって声をからして要請したがいっこうに動かなかった。それもそのはずで、歴史的瞬間だったのである。絶対にその場を離れたくない、かといって講堂内は立錐の余地もなく、動こうにも動けなかったのだ。怒号と歓声、紙吹雪が舞う両国の日大講堂で、学生側は勝利の感激に酔っていた。学生の全面勝利は学生運動史上類を見ない。

こうして一気に解決に向かうかに見えた日大闘争だったが、翌日、佐藤首相の「集団暴力は許さない。大学紛争を治安問題として取り上げる」というツルの一声で状況が一転する。日大全共闘は国家権力との直接対決を余儀なくされていく。一方では警察による秋田らリーダーの逮捕など、執拗な全共闘たたき、他方では、前面に躍り出た新左翼諸党派の「大学を七〇年安保粉砕の砦に」という政治課題至上主義の狭間で、全共闘は急速に大衆性を喪失していったのである。

▲全共闘のシンボルとも言える存在だった秋田明大。44年3月に逮捕され、拘置中、同年9月結成の全国全共闘副議長に選出された。 毎日新聞社

女たちの肖像

「ねむの木学園」に奔走 “庶民派”宮城まり子が福祉に目ざめた理由

稲葉真弓

▲4月6日の開園時には、園児8人を迎えた。

この年、静岡県浜岡町に肢体不自由児のための養護施設「ねむの木学園」が開設され、学園建設に私財を投じた歌手・女優の宮城まり子(四〇)は、動機をこう語った。

「私の役って全部庶民の役。だけど私は庶民の生活はしていない。上等のお料理が好きだし、電車に乗らないで車を使う。そんな幸せをどこかでお返ししたかった」

そもそも宮城まり子が福祉に目ざめたのは、昭和三四年、伊勢湾台風直後に渡米して、アメリカの芸能人たちから台風義援金を贈られ、「何もしていなかった自分が、恥ずかしくてたまらなかったから」だと言う。

帰国後調べてみると、日本には肢体不自由児のための私立の学校がない。そこで彼女は猛然と学園づくりのために奔走する。売名行為と白い目で見られつつも「子どもたちのお母さんになろう」という意志は崩れなかった。開設後は女優生活のかたわら、記録映画「ねむの木の詩」(昭和四九年)「ねむの木の詩がきこえる」(五二年)などを製作・監督。これらの作品は国際赤十字映画祭銀賞・同特別大賞などを受賞。また学園の子どもたちが描いた絵は、国内外の展覧会で大反響を呼んだ。五四年には学園の名称を肢体不自由児(者)療護施設と改名、子どもたちが二〇歳をすぎても学園にとどまれるよう厚生省にかけあうなど、福祉事業の道に大きな風穴を開けた。

彼女は昭和三年、東京・蒲田生まれ。戦後まもなく音楽好きの父親が結成したアマチュア楽団の歌手としてデビュー、二七年ビクターの専属歌手となった。三〇年、ボロ服を着て少年の格好で歌った「ガード下の靴みがき」が大ヒット。三三年東宝系の舞台「まり子自叙伝」に主演し、三ヵ月のロングラン記録を作った。また彼女は、作家・吉行淳之介のパートナーとしても知られている。三二年、雑誌の座談会で出会った二人は三五年から同棲。吉行の小説「闇の中の祝祭」にも登場するなど、関係は平成六年、吉行が病死するまで続いた。

彼女の輝かしい業績はヘレン・ケラー教育賞、ペスタロッチー教育賞、吉川英治文化賞など数限りないが、現在も「ねむの木村」(平成一一年完成予定)を建設中。この施設は学園の子どもだけではなく健常者もともに暮らせる日本初のコミュニティになるという。

勝者・敗者

杉山が走り、釜本が決めた日本サッカー史の記念碑 メキシコ五輪銅メダル

阿部珠樹

Jリーグがスタートするまで、けっしてメジャー競技とは言えなかった日本のサッカーだが、それでも、いくつかの誇るべき記念碑はある。そのひとつは昭和一一年のベルリンオリンピックで、当時世界的な強豪だったスウェーデンを破ったこと。そしてもうひとつが、この年のメキシコオリンピックでの銅メダル獲得である。

ベルリン以来低迷のしっぱなしだった日本サッカー界は、東京オリンピックで、開催国の面目にかけてもぶざまな試合はできないと必死の強化をし、アルゼンチンを破るという殊勲をあげた。

その翌年の昭和四〇年には日本リーグが発足し、サッカーは徐々にブームの様相を呈し始める。その波に乗ってのぞんだのがこの年のメキシコオリンピックだった。開催国特権で出場した東京大会と違い、自力で予選を突破しての出場だけに、プレーにはこれまでの日本チームにない自信があふれていた。

予選リーグの緒戦、ナイジェリアを破って勢いに乗ると、強豪ブラジル、スペインとは引き分けに持ちこんで予選リーグを突破、準々決勝に進出する。準々決勝でも、日本の勢いは止まらない。フランスを相手に、この大会絶好調の釜本邦茂(二四)が二点をあげ、三対一で快勝、ついに“メダル圏内”に突入する。

準決勝こそ優勝したハンガリーに敗れたものの、続く三位決定戦では、開催国のメキシコを相手に、圧倒するような試合を繰り広げる。前半一八分、快足を誇る杉山隆一(二七)が左サイドを駆け上がり、中の釜本にセンタリング、釜本がこれを決めてまず先制、さらに三五分にも杉山—釜本のホットラインがきれいにつながって二点目、その後も得点こそなかったものの一方的に押しまくって、勝利をものにした。

「日本サッカーの新しい歴史を作ることができた」

長沼健監督は、誇らしげに語ったが、その言葉がけっして大げさに聞こえないほど、みごとな戦いぶりだった。

◀10月24日、銅メダルを決めた対メキシコ戦の釜本の先制シュート。釜本はこの大会で7得点をあげ、得点王に輝いた。 朝日新聞社

今城力夫／CORBIS-BETTMANN／PPS

▲**南ベトナム民族解放戦線、米大使館占拠（1月31日）** 旧正月（テト）に入った未明、南ベトナムの首都サイゴンに突入した決死隊約20人が6時間にわたって占拠。一人だけが生きて捕まった。また大統領官邸も攻撃され、米国はショックを受けた。

英 伸三

▲**米原子力空母「エンタープライズ」佐世保に入港（1月19日）** 核兵器を標準装備し、ベトナムに向かう主力空母の寄港に、激しい反対闘争が起こり、学生と警官隊が各地で衝突した。

共同通信社

◀**円谷幸吉、自殺（1月9日）** 勤務先、東京・練馬の自衛隊体育学校宿舎で頸動脈を切った。東京五輪マラソンで3位になったが、「もう走れません」の遺書を残した。27歳。写真は13日の市ヶ谷駐屯地での学校葬。

共同通信社

▲**中卒者の求人難深刻（1月10日）** 若年労働力の需要は依然として高いが、中学生の進学率は高まるばかり。この春の中卒者の求人は過去最高で約4.4倍にも達した。写真は東京の大手企業で行われた中卒者採用試験。

▼**換気口から「助けて」（1月11日）** 名古屋市中村区の7階建てビル、チトセ観光センター2階のサウナ風呂から出火。客は煙で逃げ場を失い、二人が死亡、3人が負傷した。

朝日新聞社

昭和43年1月

1（月）●「あしたのジョー」、「週刊少年マガジン」で連載開始。
2（火）●南ア・バーナード教授、二度目の心臓移植手術。
3（水）●米、佐藤首相にドル防衛策への協力を要請。
4（木）●前年のベトナム戦での損失は七万一〇〇〇人と米軍発表。過去六年の総計を超える。
5（金）●チェコスロバキア共産党第一書記にドプチェク選出（「プラハの春」が始まる）。
●青江三奈「伊勢佐木町ブルース」発売。
6（土）●高見山、外国人力士として初の入幕決定。
7（日）●共産党、固有の自衛権認める安保政策を発表。
8（月）●社会人ラグビーで近鉄がトヨタ下し二連覇。
9（火）●東京五輪マラソン銅メダルの円谷幸吉、自殺。
●アラブ石油輸出国機構（OAPEC）結成。
10（水）●日本育英会が羽田闘争での検挙・起訴学生六〇人に奨学金打ち切りを決定、と新聞に。
11（木）●兵庫県警、山口組と結びレコード会社を乗っ取った吉本興業前社長ら二人を逮捕。
12（金）●日米綿製品貿易取り決めの改定交渉妥結。
13（土）●中大連合自治会、学費値上げ反対で全学スト。
14（日）●長崎県警、佐世保に「原空寄港警備本部」設置。
15（月）●南極越冬隊の内陸調査隊、往復二六三八キロを七一日で走破し昭和基地に帰着。
16（火）●博多駅で中核派と警官隊衝突。九大法学部長・井上正治、警察の過剰警備を弾圧と抗議。
17（水）●三派全学連、佐世保で警官隊と衝突。
18（木）●南海電鉄天下茶屋駅で衝突。二五二人重軽傷。
19（金）●原子力空母「エンタープライズ」佐世保に入港。
20（土）●美唄市美唄炭鉱でガス爆発。一六人死亡。
21（日）●水爆四個搭載の米爆撃機B52、北極圏で墜落。
22（月）●野坂昭如、「火垂るの墓」などで直木賞決定。
●米諜報船「プエブロ号」、北朝鮮警備艇に拿捕。
23（火）●インスブルック冬季ユニバーシアードの純ジャンプで日本が金・銀・銅メダルを独占。
24（水）●都、八丈小島を買い上げ。住民は本島に移住。
25（木）●べ平連、反戦米兵の亡命容認を政府に要求。
26（金）●日本、米ドル防衛策に三億ドルの協力を約束。
27（土）●東女大生、学費値上げ反対で初の学外デモ。
28（日）●横綱佐田の山、初の連覇。が、翌場所で引退。
29（月）●東大医学部自治会、登録医師制度に反対して無期限ストに突入（東大紛争の発端）。
30（火）●解放戦線と北ベトナム軍、南ベトナム全土で一斉攻撃（テト攻勢。31日、米大使館占拠）。
31（水）●南ベトナム全土に戒厳令。

ニュース・ファイル 1968

フォト＋日録で再現する366日

神武・岩戸をしのぐイザナギ景気が言われ、日本は依然として高度経済成長を続けていた。世界的にベトナム反戦運動が高まり、ゲバ棒とヘルメットで武装した学生が各地で警官隊と衝突を繰り返したこの年を、締めくくったのは、あっと驚く三億円事件だった。

◀**急激に伸びる自動車輸出（2月）** 昭和40年から45年の5年間に日本の自動車輸出台数は19万台からいっきょに109万台にも増加。写真は愛知県上野町の名古屋トヨタ埠頭。5000台の車が列をなして船積みを待つ。

朝日新聞社

エディ・アダムス(AP)/WWP

▲解放戦線捕虜を路上で処刑(2月1日) サイゴンのアンクアン寺院近くで捕らえた捕虜を、南ベトナム国家警察長官がその場で射殺。ピュリッツァー賞を受賞した写真。

▶えびの地震で1004戸が全半壊(2月21日) 宮崎県えびの町(現・えびの市)を中心にM6.1を記録。被害は鹿児島・熊本県にもおよび3人が死亡した。写真は総崩れの墓石。

朝日新聞社

読売新聞社

▲史上最大の金密輸(2月5日) 横浜港のイギリス船からグリース缶に入った大量の金の延べ板を発見。前月末の押収分と合わせて計560キロ(時価約4億円相当)にも。

▶倉石農相、失言辞任(2月23日) 6日「現行憲法は他力本願。軍艦や大砲が必要」と語り問題化。翌日国会でも同様の発言を繰り返して(写真)審議が停止し、ついに辞任。

共同通信社

◀浦賀水道でタンカー転覆(2月20日)「第11大東丸」が横波を受けて転覆。漂流して助かった二人に続いて、30時間後に船底を焼き切って二人が救出された。

朝日新聞社

昭和43年2月

1(木)●米、琉球政府行政主席の公選制実施を発表。

2(金)●愛媛県重信町に自衛隊ヘリ墜落。七人死亡。

3(土)●新潟県栃尾市、雪下ろしの雪で全市通行不能。

4(日)●IOC、性別鑑定拒否者の出場資格剝奪決定。

5(月)●警視庁、横浜港で英米の貨客船二隻から三億三〇〇〇万円相当の密輸金塊を押収。

6(火)●第一〇回冬季五輪グルノーブル大会開幕。

7(水)●日ソ両共産党、関係正常化のコミュニケ発表。

8(木)●無通告の米海軍機が羽田空港に着陸。

9(金)●植村直己、西半球最高峰アコンカグアに登頂。

10(土)●琉球立法院、嘉手納のB52基地化反対を決議。

11(日)●紀元節・靖国・明治百年祭反対の中央集会。

12(月)●社・公・共、非核武装と核兵器禁止の決議案を国会に共同提出(審議未了)。

13(火)●日航・全日空、早朝便で「ビジネス朝食」開始。

14(水)●国鉄の気動車総数が五〇〇〇両超え、世界一。

15(木)●関東以西で大雪。新幹線や空のダイヤが乱れ、入試延期も続出。東京は一七年ぶりの積雪量。

16(金)●全学スト中の中央大、学費値上げ撤回と理事総辞職を決定。学生側、バリケード撤去。
●総理府、農業人口が二割を切ると発表。
●ソ連、資源領有を主張する大陸棚宣言を公布。

17(土)●三船敏郎・石原裕次郎の「黒部の太陽」封切。

18(日)●谷川岳登山指導センター、開所。

19(月)●国労・動労、五万人合理化計画に反対する順法闘争を開始(第四次まで。3月23日中止)。

20(火)●金嬉老、清水市でライフル銃乱射し二人を殺害後、寸又峡温泉の旅館に籠城(24日逮捕)。
●日本初のUHF・NHK徳島教育テレビ、開局。

21(水)●宮崎県でえびの地震。M六・一。

22(木)●通産省が衣類サイズ表示の統一を日本百貨店協会に指示、と新聞に。

23(金)●東京都足立区の公団竹の塚分譲地の抽選で、最高競争率三五三八倍の新記録。

24(土)●四輪車保有は一〇〇五万台で世界五位と判明。
●A・ペン監督「俺たちに明日はない」封切。

25(日)●日本の貨物船座礁しパナマ運河が航行不能に。

26(月)●日米原子力新協定調印。米がウラン供給保証。
●成田空港反対同盟、成田市で警官隊と衝突。

27(火)●通産省、灯油値上げ自粛を石油連盟に要望。

28(水)●京都市、嵐山・嵯峨野など歴史的風土特別保存地区での土地買い上げを決定。

29(木)●「石油ストーブ消火論争」で「毛布」派の消防庁が「暮しの手帖」の「水が有効」説を是認。

読売新聞社

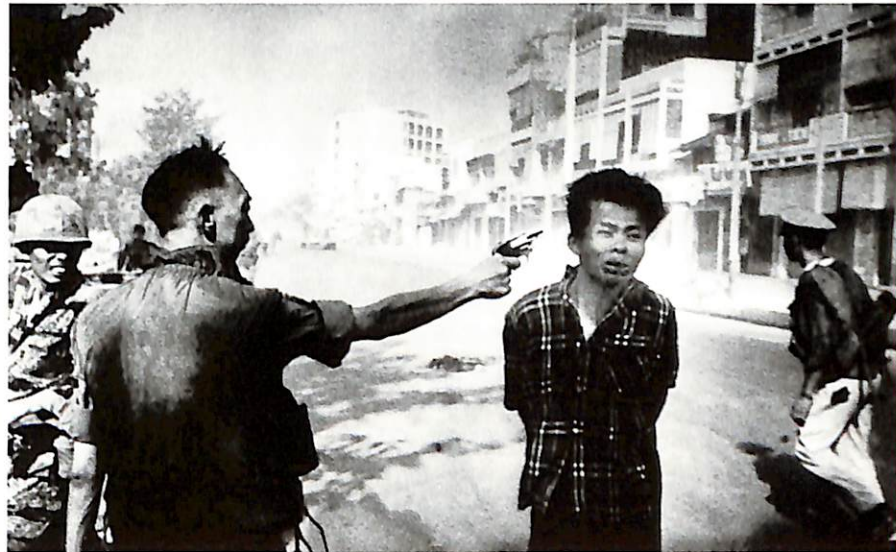
ノーボスチ通信社

▲世界初の宇宙飛行士ガガーリン大佐、墜死(3月27日) 飛行訓練中に事故にあった。34歳。写真は29日の葬儀で夫人(左)を慰める女性初の宇宙飛行士・テレシコワ。

▼東大、卒業式中止(3月28日) 医学部の学生処分をめぐって、学生が安田講堂を占拠したため、大学が式典を中止、卒業証書を渡すだけとなった。わが子の晴れ姿を期待した父母の落胆は大きかった。

◀「第5福竜丸」を保存せよ(3月10日) ビキニ水爆実験で被災した船は、練習船として使われた後、埋め立て地への廃棄が決まった。が、この日の「朝日新聞」声欄への投書から保存運動が広がり、昭和51年6月、夢の島に展示館が完成。

朝日新聞社

▲万国博、立柱式(3月15日) 会場となる大阪府千里丘陵に関係者約2000人が出席、日本万国博協会会長・石坂泰三らが引き上げ綱を引き、建設工事が始まった。しかし、本部ビル・展望塔などの施工業者が未定、不安なスタートになった。

朝日新聞社

▶南ベトナムのソンミ村で米軍が村民を虐殺(3月16日) カリー中尉の小隊が無抵抗の村民500人以上を銃殺した。当初この事件は秘密にされ、翌年帰還兵の手紙によって明るみに出た。

◀画期的な磁気半導体を開発(3月11日) 従来のものより数百倍から数千倍の高感度で反応する「ソニーマグネトダイオード」。量産が可能で用途も広い。写真は開発者の山田敏之研究員。

ロナルド・L・ヘーバール/TIME LIFE/PPS

読売新聞社

昭和43年3月

1(金)●警視庁に特殊事件捜査コンバットチーム設置。
●家計収入は前年比一〇・三%増と総理府調査。

2(土)●横須賀市で自衛隊員一六二人の隊列に米兵夫人の飲酒運転車が突っこみ、一八人が死傷。

3(日)●日航パイロット入社試験。未経験者可の募集に、定員四〇人に対し一六九六人受験。

4(月)●法務省、差別生む壬申戸籍の閲覧を中止。

5(火)●UPI通信のカメラマン・峯弘道、ベトナム戦従軍取材中に地雷の爆発で死亡。

6(水)●社会党の穂積七郎、沖縄返還の質疑で「首相は売国奴」と発言(三〇日間の登院停止)。

7(木)●山岡荘八『徳川家康』に吉川英治文学賞決定。

8(金)●都議会、米軍野戦病院開設反対意見書採択。

9(土)●イタイイタイ病患者ら、三井金属に賠償提訴。

10(日)●成田の空港公団分室に突入はかる三派全学連と警官隊衝突。一九八人逮捕、五百余人負傷。

11(月)●愛媛県で生産過剰の真珠貝五億円相当を投棄。

12(火)●美濃部都知事、「第五福竜丸」保存に賛意表明。

13(水)●農林省、農家の主婦意識調査結果を発表。娘の結婚相手は農家以外を望むが四八・三%。

14(木)●国家公安委、全学連に破防法適用せずと確認。

15(金)●大阪府千里丘陵で万国博の立柱式挙行。

16(土)●米軍、南ベトナム・ソンミ村の五百余人虐殺。

17(日)●七カ国中央銀行総裁会議、金価格高騰と品不足に対処するため金の二重価格制を採用。

18(月)●米軍、東京の王子キャンプに野戦病院を開設。

19(火)●厚生省、医薬業界に医師向け景品自粛を要請。

20(水)●東大合格者、私立で初めて灘高校が第一位に。

21(木)●長崎で世界最大の米タンカー(三一万トン)進水。

22(金)●科学技術庁の潜水調査船「しんかい」進水。

23(土)●TBS、成田闘争取材中に局バスに反対派を乗せた件で「中立侵す」と報道局長らを処分。

24(日)●大相撲で平幕の若浪が一三勝二敗で初優勝。

25(月)●旭川地裁、国家公務員現業部門への政治活動制限は違憲とし、猿払事件(前年)に無罪判決。

26(火)●小松製作所、世界初の無人ブルドーザー開発。

27(水)●厚生省委託研究班、イタイイタイ病の原因は三井金属神岡鉱業所排出のカドミウムと発表。

28(木)●東大卒業式、安田講堂占拠で中止。

29(金)●自衛隊のバッジ・システム(自動防空警戒管制組織)が完成。

30(土)●アニメ「巨人の星」、日本テレビで放映開始。
●東京高裁、青梅事件差し戻し審で全員無罪。

31(日)●米大統領、北爆の一方的停止を宣言。

ジョセフ・ロウ／TIME LIFE／PPS

▶黒人運動指導者、キング牧師暗殺される（4月4日）テネシー州メンフィスのモーテルのバルコニーで演説中、白人に撃たれた。全米で抗議の暴動が起こり、ワシントンでは陸軍が鎮圧にあたった。写真は銃撃直後。倒れているのがキング。

朝日新聞社

▲八幡製鐵と富士製鐵が「大型合併」（4月30日）稲山嘉寛八幡製鐵社長（左）と永野重雄富士製鐵社長（右）が公取委で説明。シェアは35パーセント強。昭和45年、新日本製鐵として発足。

▼ユーゴスラビアのチトー大統領来日（4月8日）羽田空港で天皇が夫妻を出迎え。9日、佐藤首相と会談後、10日には迎賓館でベトナム戦争終結に向け国際平和会議を計画したいなどと内外記者団に述べた。

朝日新聞社

読売新聞社

◀超高層ビルの草分け、霞が関ビル開業（4月18日）地上36階、地下3階、高さ147メートル。昭和39年の建築基準法改正により、それまで31メートルだった高度制限が撤廃され、東京の超高層時代が始まった。

▶陸上自衛隊に初の「婦人自衛官」誕生（4月1日）2次試験を突破した幹部要員11人が朝霞駐屯地に配属され、4ヵ月の訓練に入った。秋に募集する婦人自衛官の教育を担当、隊員の慢性的不足を解消する役割を担う。

毎日新聞社

昭和43年4月

1（月）●青年向けコミック誌「ビッグコミック」創刊。
●午後のワイドショー「3時のあなた」放映開始。
2（火）●大阪で一七歳の理容師が反戦訴え焼身自殺。
3（水）●都知事、王子野戦病院閉鎖を在日米軍に要請。
4（木）●マーチン・ルーサー・キング牧師暗殺。
●TBS、「肝っ玉かあさん」放映開始。
5（金）●小笠原諸島返還協定に日米が調印。
6（土）●静岡県浜岡町に肢体不自由児養護施設「ねむの木学園」（園長・宮城まり子）開園。
●「ローラーゲーム」のテレビ放映開始。アクションドラマ「キイハンター」も。
7（日）●神戸高速鉄道開業。私鉄四社が乗り入れ。
8（月）●東京地検、横領容疑で日本通運前社長ら逮捕。
9（火）●文部省初の『私学白書』。教員一人当たりの大学生数は国立の三倍以上の三七人。
10（水）●大阪法務局、壬申戸籍の全面回収を通達。
11（木）●三派全学連デモに騒乱罪適用準備と政府決定。
●米映画「二〇〇一年宇宙の旅」封切。
12（金）●行田市に利根大堰が完成、通水式を挙行。
13（土）●秋田県琴浜村で採算度が高い油層発見と判明。
14（日）●富士宮市の養鱒場の池に毒物が混入され、二ジマス二五〇万匹などが死ぬ。
15（月）●国税調査で日大に二〇億円の使途不明金が判明、と新聞に（日大紛争の発端）。
●ソニー、カラー受像方式トリニトロンを開発。
16（火）●自民党、靖国国家護持は合憲との見解発表。
17（水）●八幡製鐵・富士製鐵両社長、合併計画を発表（45年3月、新日本製鐵発足）。
18（木）●東京に三六階建ての霞が関ビル開業。
19（金）●参院で減税三法可決。一〇五〇億円減税決定。
20（土）●米SF映画「猿の惑星」封切。
21（日）●三派全学連委員長・秋山勝行、逮捕。
22（月）●琉球米民政府、沖縄全軍労に団交権を付与。
●横浜市の人口が二〇〇万人突破。全国三位に。
23（火）●有線放送がブーム、全国で二百余社と新聞に。
24（水）●椿忠雄新潟大教授、新潟水俣病の原因は昭和電工鹿瀬工場の廃液と発表。
25（木）●東名高速道路の一部一二八・六キロが開業。
26（金）●米、ネバダ州で大規模な地下核実験。
27（土）●京都地裁、京都市公安条例に違憲判決。
28（日）●那覇市で十数万人が祖国復帰要求総決起大会。
29（月）●パリのオデオン座で文楽公演開幕。
●全米各地で黒人の「貧者の行進」が始まる。
30（火）●国連でガーナとケニアが日本の南ア貿易非難。

証言・あの日この日

高野悦子（19）

3月14日（木）〈きのう十二チャンネルで「これがアングラソングだ！」というのをみた。土工をやりながら彼は、恋人のケイコちゃんや仲間たちと自分達の歌をつくっている。……彼の父は、教会の牧師で彼も同志社の神学部に入学したという。しかし何もやらずに、教会にいて悩みや苦しみを相談しにくる人達にあれやこれやといい、その人々の献金で生活していく、そんなことに疑問を感じて土工になった。テレビをみていてものすごく感動した〉（高野悦子『二十歳の原点序章』）

彼とは、後のフォークの神様・岡林信康。社会の役に立ちたいと考えながら青春のさまざまな問題に悩まされた高野悦子は、この翌年、20歳にしてみずから命を絶つ。岡林もまた歌手としての自分の姿に欺瞞を感じ、数年後、京都の山奥へこもってしまう。（坪内祐三）

時事通信社

▲東大五月祭にデモ隊（5月25日）大学側が要請した警官の学内パトロールに阻止全学闘争委の学生らが抗議。一般入場者はヘルメット姿の学生や時計台の赤旗にびっくり。

▼パリ5月革命（5月3日）この日パリ大学分校が閉鎖されたことに端を発し、全国的なデモやゼネストが広がり、ド・ゴール体制を揺るがせた危機（5月革命）となった。大統領は30日、議会を解散して信を問うた（写真は27日のデモ行進）。

WWP

▼十勝沖地震、北日本全域に被害（5月16日）関東大震災と同じM7.9を記録。青森を中心とする北海道南部・東北地方で死者52人、建物の全半壊は3677戸。写真は青森県八戸市で横倒しになった漁船。

朝日新聞社

読売新聞社

▲厚生省がイタイイタイ病を公害病と認定（5月8日）その原因を富山県神通川流域産米から検出されたカドミウムとし、排出源を三井金属神岡鉱業所と特定した。写真は地元の萩野病院で患者に陳謝する園田直厚相（6月23日）。

▼通勤時の電車に冷房車登場（5月11日）東京の京王線が初めて新宿—京王八王子・高尾山口間の特急と急行電車17車両で実施。通勤客へのサービスだけでなく、日曜日の特急電車にも接続した。

京王帝都電鉄提供

昭和43年5月

1（水）●電電公社、無給の育児休業制（最長三年）実施。
2（木）●米軍嘉手納基地でベ平連と米兵が初の衝突。
3（金）●パリ大学ナンテール分校で学生と警官隊が衝突、大学閉鎖（パリ五月革命の発端）。
4（土）●松下電器、子どもの事故防止に五〇億円寄贈。
5（日）●解放戦線と北ベトナム軍、南ベトナム全土でテト攻勢以来最大の攻撃。
6（月）●佐世保の米原潜「ソードフィッシュ」停泊地付近で、平常の最大二〇倍の異常放射能測定。
7（火）●厚相、サリドマイド禍は国にも責任と答弁。
8（水）●厚生省、イタイイタイ病を公害病と認定。
9（木）●仏シャンソン歌手・アズナブール、再来日。
10（金）●鍋島科学技術庁長官、米原潜が放射能汚染起こせば寄港拒否できるとの見解表明。
11（土）●初の冷房つき通勤電車が京王線で運行開始。
●仏で学生二万人がカルチェラタン解放区闘争。
12（日）●日本婦人有権者同盟、総会で企業献金禁止の法改正要求を決議。
13（月）●パリでベトナム和平会談、本格討議開始。
14（火）●軽自動車の強制保険未加入が二〇％にのぼるため、京葉道路で一斉車検取締り。
15（水）●日商と岩井産業、合併契約に調印（10月1日、日商岩井発足）。
16（木）●北日本全域に大地震（M七・九、十勝沖地震）。
17（金）●『観光白書』発表。海外渡航は二倍強に。
18（土）●トリュフォーやゴダール、カンヌ映画祭中止を叫び会場に乱入（19日、映画祭中止発表）。
19（日）●大鵬に続き柏戸休場。一八年ぶり横綱不在に。
20（月）●船橋市の東邦大付属高校で校則の丸刈りを拒否して生徒一〇〇〇人が授業ボイコット。
21（火）●全港湾労組関門支部、弾薬輸送を全面拒否。
22（水）●四一年（丙午）の出生数は二五％減と厚生省。
23（木）●日航と全日空、国内幹線収入をプールし一定比率で分配する運賃プール協定を締結。
24（金）●「週刊セブンティーン」（集英社）創刊。
25（土）●富山湾沖で世界最長の海底の川（全長五七〇キロ）が発見され、「富山深海長谷」と命名。
26（日）●自民党、都市政策大綱発表。国土改造を強調。
27（月）●日大で全学共闘会議（議長・秋田明大）結成。
28（火）●福岡県、大牟田川河口で有機水銀検出と発表。
29（水）●国民生活研究所、首都圏の団地生活調査結果を発表。専業主婦は六七％。
30（木）●消費者保護基本法公布施行。
31（金）●都、接待ゴルフ禁止など汚職防止八戒を提言。

朝日新聞社

▲クライスラー社副社長来日（6月8日）米巨大自動車メーカーの日本進出が喧伝される中、ビッグスリーのひとつが上陸。東洋工業と提携かと報じられたが、翌年、三菱重工と合弁会社設立を発表。

読売新聞社

時事通信社

▲世界最大100インチのカラーテレビ（6月4日）ソニーが実用化をめざして試作した縦1.5メートル、横2メートル、奥行き25センチの壁掛け式。赤・黄・緑の色電球約8万個を点滅させる仕組み。

読売新聞社

▲小笠原諸島、日本復帰（6月26日）アメリカとの返還協定が発効し、東京都小笠原村となった。写真は太平洋戦争の激戦地だった硫黄島の摺鉢山に日章旗を立てる海上自衛隊員。

▶九大に米ジェット戦闘機が墜落（6月2日）板付基地に着陸直前、福岡市の工学部構内に建設中の大型電子計算機センターに激突して炎上。この事故を契機に市民の基地撤去運動が燃え上がった。

◀北九州市で米軍弾薬列車、止まる（6月11日）基地問題とからんで米軍弾薬庫への搬入に反対する学生ら約250人が南小倉駅構内に侵入、貨物列車を止めたが、排除された。

朝日新聞社

昭和43年6月

1（土）●福井市一乗谷の朝倉氏遺跡、発掘開始。
2（日）●米軍F4ファントム戦闘機が九大工学部構内に墜落（4日、学長先頭に抗議デモ）。
3（月）●通産省、JISを消費者保護の観点から改正。
4（火）●東京地検、日通事件で参院・大倉精一を斡旋収賄容疑で逮捕（25日起訴）。
5（水）●米民主党の大統領候補、R・ケネディ暗殺。
6（木）●中学の授業時間二時間増など教育課程審答申。
7（金）●三六年焼失の日光の薬師堂復元され一般公開。
8（土）●ダスティン・ホフマン主演「卒業」封切。
9（日）●下田沖で沈没フィリピン船から重油流出。
10（月）●大気汚染防止法公布。規制強化した総合立法。
●熊本県植木町で九州縦貫自動車道の起工式。
●つげ義春「ねじ式」、「漫画ガロ」増刊号に掲載。
11（火）●北九州市の米軍弾薬庫への搬入に反対する学生ら、南小倉駅に座りこみ輸送列車止める。
12（水）●農林省、高値の豚肉四〇〇〇ト緊急輸入決定。
13（木）●食生活洋風化でレタスの入荷量倍増と新聞に。
14（金）●松下電器、全部品本体収納型の掃除機発表。
15（土）●文化庁発足。初代長官は今日出海。
●東大医学部の学生ら、安田講堂を占拠（17日、機動隊により排除）。
16（日）●横須賀線の電車で時限爆弾爆発。二九人死傷。
17（月）●自民党、日米安保条約の自動延長を了承。
18（火）●横須賀爆破事件、広域重要事件第一〇七号に。
19（水）●三菱重工といすゞ自動車が業務提携。
20（木）●植木毅、日本人で初めてモンブラン頂上からのスキー滑降に成功。
●全米陸上一〇〇mで九秒九の世界新。
21（金）●三派全学連など、「日本のカルチェラタンに」と東京の神田学生街を占拠。
22（土）●大阪府警、一年で三ト。の金密輸組織を摘発。
23（日）●インターンに代わる登録医師制度導入後、初の医師国家試験を四割強がボイコット。
●東京・草月ホールで日米CM一四〇本上映会。
24（月）●地婦連など沖縄返還二〇〇万人署名を首相に。
25（火）●日通事件で衆院・池田正之輔を収賄容疑で起訴。
26（水）●小笠原諸島、二三年ぶり日本に復帰。
27（木）●チェコスロバキアの知識人ら七〇人、民主化停滞を批判する「二千語宣言」を発表。
28（金）●林海峯、最年少（二六歳）で本因坊位獲得。
29（土）●熊谷市のザ・タイガース身障者チャリティーショーのステージにファン殺到。八人負傷。
30（日）●新宿で「フーテン族」ら交番に投石。三人逮捕。

20世紀博物館

福山自動車時計博物館 広島・福山市

「乗れ、見れ、触れ、写真撮れ」の〝ごった煮〟空間

桑原茂夫

▲ずらっと数十台の自動車が並んでいる。どれも動かせる状態にあるのがすごい。　井上一郎

▼ダットサンSPL213（左）とトヨペットクラウン（右）。実際に運転席に座ってハンドルを握れる。

▶館外に駐車している木炭バス。戦後のエネルギー不足の時に木炭を燃やして走ったバス。

博物館に入る前に、近くの駐車場に、鼻の出たボンネット式のバスがあるのを見つけた。しかも明らかにポンコツではない。今生きている感じなのである。後で聞いてみると、やはり（と言うべきなのだ）この博物館のものであり、一九五〇年代に走っていた日産のディーゼルバスで、機会があれば今でも実際に動かすことがあるそうだ。

このなんともいえないリアリズムが当博物館の真骨頂なのである。キャッチコピーにはこうある——「乗れ、見れ、触れ、写真撮れ世界初の体験博物館」と。

さて中に入ると、広さ一一〇〇平方メートルほどの天井の高い空間に、ずらりと自動車が並べてある。壁にはいろいろな時計が掛けられているが、ほかにも、手回し式のオルゴールや馬の鞍などもあり、どちらかというと〝ごった煮〟の博物館であり、にぎやかなのである。

平成元年に私財をなげうってみずから創設した館長・能宗孝さん（昭和一八年生まれ）の「かつて町にあったもの、町で見たものを、老いも若きも五感で感じ取ってほしい」という思いが、そのまま展示物や展示方法に表れている。キーワードは〝五感で感じる〟なのだ。

たとえば、「ダットサンフェアレディZ」のルーツと言われる一九六〇年代初頭のSPL二一三と、一九五〇年代の名国産車「トヨペットクラウン」が並んでいるかと思うと、終戦直後、日本の道路を席巻したジープや、ほぼ同じ頃走っていたダイハツのオート三輪などが待ち構えている。そこを歩くと、戦後の道路の匂いまで漂ってくるようだ。

館内のところどころに置いてある蠟人形も奇妙な現実感覚をもたらす。

ワシントンがいてリンカーンがいる。そして、吉田茂がいてマッカーサーがいる。こうした歴史の教科書に出てくるような人物が、実際に存在していたのだということを納得させる不思議な力が蠟人形にはある。五感にはたらきかけてくるのだろうか。館長の能宗さんはそれを〝感動〟だと言う。そして「感動なくして何も生まれませんよ」とも。

壁に時計がたくさん掛かっている。なぜ時計なのか？　能宗さんの答えがユニーク。「かつて時計は修理できたではないか！　そのことを思い起こしてほしいからだ」。大量生産、大量消費、大量廃棄の時代が到来して失われたものを、これらの時計に象徴させているのだ。

そういえば、館内の一角に、少なくとも一九五〇年代までは、各地にあった〝時計屋さん〟の店先がある。そこには修理用の道具や部品がたくさん用意してあって、店主（技術者でもあった！）が座りさえすれば、たちまちにして生き返りそうなたたずまいなのである。

この一見〝ごった煮〟の博物館は、過去の記憶を、果敢に現在に投げこんで甦らせ、未来につなごうとする、立体版〝バック・トゥ・ザ・フューチャー〟なのであった。

▲実際にあった時計店が、たまたま店主不在であるかのような状態で展示されている。

●福山自動車時計博物館
広島県福山市北吉津町三－一－二二
☎〇八四九－二二－八一八八
JR福山駅下車、徒歩一二分
開館時間＝九時～一八時
休館日＝一二月二六日～三一日のみ
入館料＝一般九〇〇円

ベストセラー

“激動の時代”のヒーロー甦る司馬文学の代表作『竜馬がゆく』

すでに刊行されていた司馬遼太郎の『竜馬がゆく』（全五巻）が、NHK総合テレビの大河ドラマとなり、たちまちベストセラー上位に名をつらねた。

高度成長期に入って、ライフスタイルまで急激に変化していく中、これも幕末維新の激動期に彗星のごとく現れ、時代を切り開いていった坂本竜馬は、待望久しいヒーローにほかならなかったのかもしれない。作者・司馬遼太郎自身は後書きで「われわれの歴史のあるかぎり、竜馬は生きつづけるだろう。私はそれを感じている自分の気持を書く。冥利というべきである」ときっぱりと記しているが、その思いを現実のものとするだけの、緻密な取材と深い洞察に基づく物語であった。その後の坂本竜馬を主人公としたドラマの大半が、この『竜馬がゆく』を原型にしているのも当然のことだったのである。

同じ時期に、まことに現実的な『民法入門』『刑法入門』が売れたのも、この時代が大きく揺れ動いて感じられたからだろうか。もともとは検察官であり、執筆当時は弁護士と覆面推理作家でもあった佐賀潜が、真正面から法律の条文を取り上げ、その考え方や解釈を、具体的で身近な事例をあげながら解説した、信頼のおける、しかもわかりやすいハウツーものだった。

民法とはとどのつまり、金と男女の問題を規制しルールを定めたものと書かれると、なるほどそんなものなのかと、納得させられるのである。

一方、人気推理作家・松本清張はこの年、浦島や羽衣伝説の地を訪ねながら謎を追う長編推理小説『Dの複合』をヒットさせた。

●昭和43年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『人間革命(4)』(池田大作／聖教新聞社)
2位	『民法入門』(佐賀潜／光文社)
3位	『刑法入門』(佐賀潜／光文社)
4位	『竜馬がゆく』(全5巻／司馬遼太郎／文藝春秋)
5位	『頭の体操(4)』(多湖輝／光文社)
6位	『どくとるマンボウ青春記』(北杜夫／中央公論社)
7位	『商法入門』(佐賀潜／光文社)
8位	『愛』(御木徳近／KKベストセラーズ)
9位	『道路交通法入門』(佐賀潜／光文社)
10位	『Dの複合』(松本清張／光文社)

全国出版協会出版科学研究所

▲司馬遼太郎「竜馬がゆく」(文藝春秋、420円)

▲佐賀潜「民法入門」(光文社、300円)

▲松本清張「Dの複合」(光文社、370円)

スターと名場面

「神々の深き欲望」で熱演 沖山秀子の“生命の輝き”

今村昌平監督の長編「神々の深き欲望」は、高度成長期に生きる人々と、豊かな自然とともに生きてきた人々との相剋を、南方の孤島を舞台に描き出したが、新人・沖山秀子は狂気の中に生命の輝きをほとばしらせる演技で、北村和夫らが演じる常識的社会人をさかんに挑発してみせた。

一方、死刑問題と朝鮮問題を通して、いわば国家論を展開した、大島渚監督の「絞死刑」は、日本よりもむしろ海外に衝撃を与え、大島渚の名を国際的なものにする記念すべき作品となった。

東映京都の任侠映画路線からも傑作が生まれた。山下耕作監督の「博奕打ち・総長賭博」である。ストーリー構成もさることながら、カラー画面が舞台のような様式美を備え、観客の息をのませた。

また、劇団「天井桟敷」を率いる寺山修司が、「書を捨てよ町へ出よう」を公演するとともに、映画「初恋・地獄篇」のシナリオを書いて、その多才ぶりを発揮し始めたのも、この年のことだった。

ほかに次のような映画が話題になった。かっこ内はおもな出演者。

「肉弾」(寺田農、大谷直子)／「犯された白衣」(唐十郎)／「俺たちに明日はない」(W・ビーティ、F・ダナウェイ)／「卒業」(ダスティン・ホフマン)

東宝提供

▲羽仁進監督の「初恋・地獄篇」。高橋章夫(左)と石井くに子(右)。

日活提供

▶開発のために来島した技師(北村和夫＝下)は、島の女(沖山秀子)にひかれていくのだが……。「神々の深き欲望」から。

▼男の意地を主張する若山富三郎(左)とそれをいさめる鶴田浩二(中)。「博奕打ち・総長賭博」から。

東映提供

▶東映任侠映画の傑作、内田吐夢監督「人生劇場・飛車角と吉良常」。藤純子(左)と高倉健(右)。

東映提供

モノ語り'68

洗濯機用集塵器「クリーニングペット」や「ボンカレー」簡単・便利なアイディア商品が大ヒット

▲レトルト食品が初登場した　世界で初のレトルト食品として開発されたのが、大塚食品工業(現・大塚食品)の「ボンカレー」。この年2月に阪神地区で限定販売されたが、肝心の袋に難点があり、翌年に改良、翌々年全国発売に踏み切り、大ヒット商品になった(180グラム入り80円)。ちなみに〝レトルト〟とは、缶や袋に詰めた食品を加圧・加熱して殺菌する高温殺菌釜のことで、レトルト食品は袋に詰めたもの。もちろん常温保存が可能。

▶まな板が木からプラスチックへ　ポリエチレンのブロックを厚さ9ミリに切り出して作られた、国産初の家庭用プラスチックまな板が、住友ベークライトから「マイキッチン」の名で売り出された。この前年に生産された業務用のプラスチックまな板と作りの基本は同じだが、家庭で使いやすいようにと、まな板の上下面にそれぞれすべり止めの網目エンボスシートのギザギザがつけられた。

▶化粧品の価格イメージを変えた　全国地域婦人団体連絡協議会(地婦連＝ちふれん)が開発、11月に100円で販売を開始した「ちふれ化粧品」が話題を呼んだ。広告宣伝、過剰包装などにかかっていたコストを減らし、有名化粧品メーカーの製品と同等の質を保ちながら、低価格を実現した。成分の公表や、基礎化粧品に着色剤を使わないといったポリシーも消費者に歓迎され、売れ行きを伸ばした。

▶家庭の風呂にもシャワーがついた　関東ガス器具(現・ガスター)が発売した「シャワー付バランス型風呂釜BF-S」は、3年前に同社が東京ガスなどと共同で開発・発売したバランス型風呂釜に、待望のシャワーをつけたもの(4万9500円)。集合住宅に取り付ける場合でも、浴室内の空気が一酸化炭素で汚れることがなく、しかも追い焚きができるという特徴を備えたバランス型風呂釜にシャワーがついたのだから大人気。現在までに600万台を超える超ロングセラーとなった。

▶主婦のアイディアが大ヒット　洗濯物をたたむたびに気になる、衣類につく糸くず。これをなんとかできないかと、一主婦が考案した洗濯機用集塵器。これがダイヤ産業(現・ダイヤコーポレーション)から「クリーニングペット」として、1個200円で売り出され、電気洗濯機の急速な普及とマッチして、大ヒット商品となった。

▼国産の高級乗用車が出現　いすゞ自動車が斬新なデザインと高性能のDOHCエンジンを搭載した「いすゞ117クーペ」を発売した。ほとんど手作りで1点ずつ仕上げるという贅沢さや、172万円という、当時の普通車の3倍近くもする価格、そしてヨーロッパの自動車ショーなどで、世界の水準に追いついたと評されたこと等々が重なり、人気を呼んだ。

▶みんな持ってるスポーツバッグ　エースが発売したスポーツバッグ「マジソンスクエアガーデンバッグ」(通称マジソンバッグ)が、関西では神戸で、また関東では横浜・横須賀で反響を呼び、ブームのきざしを見せた。特に女子高校生が、通学のサブバッグとして使用したのがきっかけで、やがて中・高校生の定番商品にまでなっていった。10年間で推定2000万個が売れた超ヒット商品である。発売当時は小が1個1100円で大が1300円。

人物クローズアップ

コント55号

欽ちゃん(二六)・二郎さん(三三)、スピードとアドリブでテレビを席巻！

昭和四三年四月一日。それまで見たこともない新鮮なコンビが登場するテレビ番組がスタートした。月曜から金曜までの毎日、フジテレビが正午から一時間にわたって放送した「お昼のゴールデンショー」。新鮮なコンビとは、萩本欽一（二六）・坂上二郎（三三）の「コント55号」である。

彼らのコントには、かつてない動きの激しさと、勝つか負けるかの激しい言葉のやりとりが満ちあふれていた。たとえば、「ジャイアント馬場と大鵬では、どちらが強いでしょうか」と萩本。坂上「さあ……、大鵬でしょうかねえ」といった何気ない会話から一転、萩本が「あなたは眠いので、適当な返事をしたのでしょう」などと、徹底的に攻めまくる。その意表をついたスピーディーな展開が、フジテレビのプロデューサー・常田久仁子の目にとまったのである。

▲どんなに忙しくても、楽屋では、かならず綿密な打ち合わせをした。 野上透

「それはもう充実していましたねえ。無我夢中でネタをこなしていって、それがウケて、忙しくなってということで、それはもう充実という以外にありません」

坂上は当時をこう語る。彼らのコントには、これといった台本はない。あるのは大筋だけで、あとはアドリブだった。

「ぼくがツッこむと二郎さんがサッと受ける。だからぼくは、二郎さんが受けられないようにまた激しくツッこむ。そういうことで、もう戦いになっちゃうんです。そしてぼくが負けると、それはいいコントになる」と萩本は当時を振り返る。

萩本は、昭和一六年五月七日、東京生まれ。高校卒業後、浅草東洋劇場に入り、三八年浅草新喜劇を結成。浅草を中心に舞台で活躍していた。一方、坂上は昭和九年四月一六日、鹿児島市生まれ。二七年、NHKのど自慢に優勝し、歌手をめざして上京したがパッとせず、ドサまわりの司会や、漫才などをやっていた。二人が知り合ったのはその頃である。

萩本と坂上が「コント55号」を結成したのは、二年前の昭和四一年。当初コンビ名はなかった。しかし、少しずつ人気が出てくるとそうはいかなくなった。結局、巨人の王が打った五五本のホームラン記録（三九年）にちなんで、「コント55号」と名づけることにした。

彼らは、またたく間に週五本のレギュラーを抱える売れっ子となり、四四年四月に始まる日本テレビの「コント55号！裏番組をブッ飛ばせ!!」では、低俗番組との非難にもかかわらず、平均視聴率でNHK大河ドラマの「天と地と」を上回った。しかし、テレビにはまるで違った反応が現れた。萩本が続ける。「テレビでは別のことがウケるんです。番組の最後に手を振りますね、ぼくはそれを前でやると恥ずかしいから、いちばん後ろでやると、それがとってもよかったというような反応になる。つまり芸ではなくて……」。視聴者の中心は次第に子どもに移り、質の高いコントほどウケなくなった。二人は別々の道を歩き始め、昭和五一年、「コント55号」はコンビを解消した。

▲パジャマ姿でポーズを決める二人。昭和43年頃。 浅井企画提供

▲浅草でデビューしたコント55号が、テレビに進出するきっかけは、43年2月の日劇「西田佐知子ショー」への出演だった。人気者になっても二人は舞台を大事にした。 浅井企画提供

▲凶弾に倒れたロバート・ケネディ上院議員。かたわらにかがみこんでいるのは、たった今、握手をしたばかりの厨房係の少年である。　ボリス・ヤーロ　ロサンゼルス・タイムス　デジタルハウス

決定的瞬間

兄のJFK、キング牧師……三たび襲ったアメリカの悪夢 ロバート・ケネディ暗殺！

一九六八年六月五日午前零時一五分(現地時間)、ロサンゼルスのアンバサダー・ホテルで金属性の発射音が連続し、ロバート・F・ケネディ上院議員(四二)は右腕を宙に放り上げる格好で、身体を回転させながら崩れ落ちた。兄のジョン・F・ケネディ大統領が四六歳でテキサス州ダラスで暗殺されてからわずか五年たらず。米政界の名門ケネディ家に再び不幸が襲った瞬間だった。

その日、午前零時すぎ、ロバートは大統領選の天王山カリフォルニア州の大統領予備選挙で、対立候補のハンフリー副大統領、マッカーシー上院議員両候補をおさえて勝利宣言を終えたばかりだった。人々ににこやかにVサインを送り、祝賀会場から支持者の歓呼を後に、配膳室を通って貨物用エレベーターへ通じる廊下の方へ歩いていった。その時、事件は起こったのである。

群衆の頭越しに、一本の腕がヌッと突き出た。その手に握られた拳銃の銃口がロバートに向けられ、引き金はしぼられた。弾丸の一発は彼の肩に軽い傷を負わせただけだった。が、もう一発は右の耳近くに命中した。ただちに病院にかつぎこまれ、三時間におよぶ弾丸の摘出手術を受けた。が、事件から一八時間後に脳波は完全に停止し、二五時間二九分後の翌六日午前一時四四分に心臓が止まった。

その場で逮捕された犯人は、ヨルダン人の移民の子サーハン・B・サーハン(二四)と判明した。凶器の拳銃は二二口径で、発射された弾丸は八発、ほかに五人が負傷した。サーハンは、ロバートの親イスラエル的な発言を憎み、祖国がイスラエルに圧倒された、第三次中東戦争一周年の六月五日までに暗殺しようとねらっていたという。

ロバートは一九六〇年の大統領選挙戦では選挙事務長として兄ジョンの当選に貢献。翌年、三五歳の若さで司法長官に就任して、鉄鋼業界の不正摘発や黒人問題で辣腕をふるった。特に黒人問題では、法律的に差別された南部黒人の公民権向上のために尽力した。六四年、司法長官を辞任、上院議員に当選する。上院でジョンソン大統領のベトナム政策を批判し、若い世代の支持を集めたが、白人の差別主義者や労組ボス、財界などには敵が多かった。

「我々はアメリカ国内の分裂、対立を解消し、暴力をおさえなければなりません」——ロバートの最後の言葉だが、彼が凶弾に倒れる二ヵ月前には黒人解放運動の指導者マーチン・ルーサー・キング牧師(三九)が暗殺されている。

たてつづけの暗殺事件は、外にはベトナム戦争の泥沼化、内には黒人〝反乱〟などの人種問題を抱える、デモクラシーの本家アメリカ社会の歪みと分裂を浮き彫りにするものだった。

◀暗殺犯を取りおさえた二人の選挙本部員。もぎ取った拳銃は回転式八連発で、全弾発射されていた。　WWP

美の出会い

原色・低俗・エロスを強調 横尾忠則の"サイケ・アート"が巷に、キャンパスにあふれた！

「週刊誌や雑誌、テレビの仕事がどうにもならないほど集中して、自分とは別の力がはたらいているようだった」

昭和四二年、こうした状況から逃れるかのようにグラフィックデザイナーの横尾忠則（三一）はニューヨークに脱出した。そこで彼は「サイケデリック」という言葉を初めて聞く。

イースト・ヴィレッジにあるエレクトリック・サーカスというディスコに出かけた横尾は、ギンギンのロック音楽を演奏する「サイケデリックショー」を見るのが日課となっていった。ポップ・アートのアンディ・ウォーホルやジャスパー・ジョーンズと会ったのもこの頃だった。こうしてニューヨークのアートシーンにすっかり魅せられ、二〇日の滞在予定を四ヵ月近く延ばして、その年のクリスマスイブに帰国した。翌年の四三年は、横尾にとってマスコミからの攻勢がますます強まる年となった。横尾は、サイケ、アングラ、ハレンチの教祖にされてしまったのである。

「アメリカでもぼくのポスターは、サイケともポップとも言われたけれど、まったくの誤解なんです。サイケデリックはドラッグによる意識の拡大によって体感するビジョンのことで、ぼくのはただ日本の前近代や土俗的なものを表現していただけです。それにしてもぼくのポスターには、ウォーホルのマリリン・モンローと同じ値段がつけられて驚きました」と横尾は当時を回想する。

新宿や赤坂など東京の盛り場では、原色の色彩を使った低俗・エロスにあふれたサイケ調が、風俗の最前線に広がり始め、大学紛争中の学園祭では、横尾風のポスターや看板が出まわった。

昭和四三年の横尾の仕事を追ってみると、まず「ヘンリー・ミラー展」（伊勢丹）のポスター、カタログ、ディスプレイ。次いで大阪万博・繊維館のパビリオンの大仕事が舞いこんだところに、映画監督の大島渚から映画「新宿泥棒日記」の主役に抜擢される。そのうえ、劇団創立時から参加している寺山修司主宰の天井桟敷で「大山デブコの犯罪」「毛皮のマリー」の美術、ポスターをこなし、状況劇場や土方巽の公演ポスターを描き、「平凡パンチ」にイラストを連載していた。

そして第六回東京国際版画ビエンナーレ展のポスターとカタログの装丁。これは出品された数多くの作品以上に話題を呼び、朝日新聞の美術記者・小川正隆が審査後の記者会見で、「横尾忠則のポスターがグランプリの野田哲也の作品に負けず優れているので、これにもグランプリを与えてもいいのではないかと外国審査員から提案があった」と述べた。

この頃の作品について横尾は、「大衆がすでに作りあげたもの、手垢のついたものというか、"眼垢"のついたものに興味があった」と言う。

作家の三島由紀夫は、前年、銀座の南天子画廊で行われた「横尾忠則展」の案内状に、次のように記している。

「横尾忠則氏の作品は、全く、われわれ日本人の内部にあるやりきれないものが全部露呈していて、人を怒らせ、怖がらせる。何という低俗のきわみの色彩であろう。（略）何という無礼な芸術であろう。（略）そこには、内部へ内部へと折れ込む狂人の世界とは別に、ひとつの広大な、嘲笑された世界が横たわっている。この広野が、彼の作品を最終的に健康なものにしているのだ。」

このオマージュは横尾を勇気づけるものであったが、横尾は三島から「無礼は芸術家にまつわるものだが、矛盾するようだが礼節ということが大切なんだ」と示唆されたことが忘れられないと言う。

昭和四三年初め、ニューヨーク近代美術館の「ワード&イメージ展」のポスターを制作。同展に出品した八点の作品のうち、状況劇場公演「腰巻お仙」のポスターは、一九六〇年代の代表作に選ばれた。これらの作品は、日本の『年鑑広告美術』に応募してすべて落とされたものである。

▲「平凡パンチ」に掲載された「浅丘ルリ子」のイラスト。 横尾忠則アトリエ提供

▲ニューヨーク近代美術館の個展会場にて。土俗的な世界とポップ・アートの結合が評判を呼んだ。 横尾忠則アトリエ提供

◀映画「新宿泥棒日記」（創造社＝ATG・四四年公開）のポスター。状況劇場「腰巻お仙」のポスターに感動した大島渚は、すっかり横尾に惚れこんで、この映画の主役に抜擢した。 横尾忠則アトリエ提供

「現場」を歩く

寸又峡

「金嬉老事件」人質の恐怖と風化する世間の記憶

山本徹美

昭和四三年二月二〇日午後八時頃、静岡県清水市内にあるクラブで、暴力団員二人がライフルで殺害された。犯人は、元手形ブローカー・金嬉老（戸籍名権禧老・四一）。大雪が降る中、金はレンタカーで大井川沿いを北に逃走。約四五キロ離れた榛原郡本川根町の寸又峡温泉に到着すると、旅館「ふじみや」に押し入り、旅館主一家をはじめ人質一三人を盾に籠城した。後に言う「金嬉老事件」である。

▲現在の旅館「ふじみや」。行きかう湯治客たちは、事件のことなど知らぬげだ。　但馬一憲

◀43年2月24日、ライフルを背にテレビの取材に応じる金。この日の午後、記者をよそおった警官に逮捕される。　時事通信社

事件から二九年が経過、温泉ブームに沸く中、「秘峡の湯」として知られる寸又峡であるが、当時の面影は残っているのだろうか。訪ねてみると、平成三年に貫通した三本のトンネルにより、大井川鉄道千頭駅からの所要時間は三分の一に短縮され車で約四〇分。とはいえ、急峻でカーブの続く山道は、南アルプスの山懐を実感させる。

旅館「ふじみや」は、今も営業している。かつて人質にされた館主の望月和幸氏は三年前に他界、今は夫人である英子さん（五八）が、女将である。

「金は電話をかけると言い、うちの主人を同行した。電話のベルが鳴った直後、バーンと銃声が響きました。私はてっきり、主人が撃ち殺されたんだと思い、気が遠くなりました。でも、それは威嚇射撃で、主人の無事な顔を見た時は涙が出ました。あれ以来いまだに、夜、電話が鳴ると、びくっとするんです」

金の通話先はマスコミだった。清水署刑事の朝鮮人侮辱発言の撤回と、殺した暴力団員のあくどさを公表するよう要求したのである。それが実現すれば人質は解放し、自決すると宣言。ダイナマイト七二本入り桐箱と、青酸カリ溶液の入ったポットをかたわらに置いた。

テレビへの電話出演

この種の人質事件はわが国初登場で、しかもテレビに犯人が電話出演するにいたっては、前代未聞の出来事だった。

一三人を監禁したものの、三日目には英子さんとその子ども三人を解放。四日目には「資格試験を受けに行きたい」と申し出た建設現場員ら三人を自由にするなど人情味のあるところも見せたが、警察が近づこうとすると、ライフルを撃ち、ダイナマイトを爆発させた。

二四日午後三時すぎ、金が人質の一人を外へ出そうとしたところへ、新聞記者をよそおった警察官一〇人が飛びかかり逮捕される。

彼は殺人、監禁などの罪で、同年静岡地裁に起訴され、昭和五〇年一一月四日、最高裁で無期懲役刑が確定した。

「捕まる直前、金は主人に現金一万五〇〇〇円と高級時計をくれ、『今は迷惑をかけるけど、そのうち客がすごいふえるから』と言ったそうです」

その予言どおり、事件報道のおかげで寸又峡温泉は全国に知れ渡り、観光客は急増。年間一〇万人たらずだったのが、事件後はなんと四五万人に。一二軒だった宿泊施設は、一四軒にふえた。が、「ふじみや」だけはさにあらず。

「うちは見物客ばかりで、それから五年間くらい宿泊客はふえませんでした」

最近では、事件を知らない客の方が多いという。

左手に「ジャーナル」、右手に「マガジン」 “真っ白に燃え尽きたい”若者が支持 「あしたのジョー」5年4ヵ月の連載開始！

▲講談社講堂で行われた「力石徹の告別式」。講堂にはリングが設営され、追善試合や劇の上演まであった。　人力飛行機舎提供

「あしたのジョー」は、連載開始とともに、少年マンガの枠を超えた圧倒的な反響を呼ぶ。貧しさからはい上がり、力石徹ら好敵手との闘いの中で、社会への反発をボクシングに燃焼させていくジョー。そして、真っ白に燃え尽きたジョーは、「闘争の時代」を生きた全共闘学生たちの“アイドル”でもあったのだ。

マンガのキャラクターの葬式に全国から八〇〇人

劇画史上不朽のスーパースター「あしたのジョー」こと矢吹丈（以下ジョー）が「週刊少年マガジン」（講談社）誌上に登場したのは昭和四三年一月一日号のことだった。東京・山谷の一角にぶらりと現れた一人の不良少年ジョーがプロボクサーとなり、リングで死闘を演じ、「真っ白に燃え尽きる」までを描いたものだ。原作は高森朝雄（三二）、作画はちばてつや（二八）のコンビだった。高森は梶原一騎の別名である。

五年四ヵ月にわたる連載が始まるや、「ジョー」は世代を問わず大きな

▶告別式のチラシ。会葬案内も作成された。　人力飛行機舎提供

▲執筆中のちばてつや。昭和31年、高校在学中にデビュー。「ちかいの魔球」など、数々の名作を生み出す。

共感を呼んだ。劇画の登場人物の告別式が行われるまでに、ブームは沸騰していった。四五年三月二四日のことだ。告別式の主はジョーのライバル・力石徹。この年の二月一五日号でジョーとの凄絶な打ち合いのすえに力石が死ぬと、「なぜ殺したのか」という抗議の声も寄せられ、イラストレーター・横尾忠則をはじめ一〇〇通を超える弔電や香典が編集部に届く。詩人・寺山修司は「なぜ力石は死んだのか」と題し「あしたのジョーは（中略）四角いジャングルの中に69年から70年へかけての闘争的な時代感情を反映している」と書いた。

そして架空の人物「力石徹」の告別式という前代未聞の催しが、寺山の主宰する劇団「天井桟敷」のメンバーを中心に東京・音羽の講談社講堂で開かれる。

「まさにマンガ、頭にきたか」などと揶揄されながらも、五〇〇人定員の会場に約七〇〇人が集まった。遺影の飾られた会場から一〇〇人があふれ、お土産を受け取って帰るという一幕もあった。焼香が行われ、僧侶の読経が響くと会場からはすすり泣きの声も。中には大阪や四国から、このためだけに駆けつけたファンもいたという。

「マンガで主人公のライバルが死ぬことはよくある。こんな大騒ぎになるとは、参加するまで半信半疑でした。みんな目が真っ赤だし、子どもだけでなく喪服を着た大人もいた。梶原さんと、うっかりしたものは描けないねぇと話しました」

意外だったと、ちばてつやは振り返るが、主人公・矢吹丈のひたむき、かつ反逆的な人物像は、一九六〇年代末から七〇年代初頭という時代の中で若者の心を確実にとらえていた。昭和四一年にスタートした「巨人の星」（原作・梶原一騎、作画・川崎のぼる）とともに「ジョー」は「少年マガジン」を一五〇万部という驚異的部数にまで押し上げたのだった。

原作者、マンガ家、編集者 三者の対話が傑作を生む

やはり超人気マンガ「巨人の星」の原作者・梶原一騎が、高森朝雄という名前を使ったのは、読者に先入観を与えないためだった。梶原の実弟・真樹日佐夫は「ジョー」こそ原作者自身が最も投影された作品だと言う。

「登場人物はみんな梶原の分身だよ。特に梶原はジョーのような、のびのびと、何ものにもとらわれず、社会の枠の外にある生き方にずっとあこがれていた。感化院上がりというのもジョーと似ている。あの頃は、そういったジョー的な生き方ができなくなった時代だったからね。読者の共感を生んだんじゃないかな」

梶原は「ジョー」の原稿を「巨人の星」の半分の時間で書き上げるほど乗っていた。そして、その原作の魅力を引き出したマンガ家のちばがいた。

「非常に密な対話の中で生まれた、あまり例のない作品だった。後半、梶原さんが売れっ子になってからはできなくなったが、初めのうちは一晩中、膝を突き合わせて、話をしましたね」

力石の死によって輝きを失ったジョーを描くうちに体をこわして入院するほど、ちば自身も作品に没頭していた。

平成三年に文藝春秋が行ったアンケートで、「ジョー」は「鉄腕アトム」をおさえ、「心に残る少年少女マンガ」の一位に輝いた。「当時、マンガは文芸より一段低いメディアと見られていた。でもぼくらはジョーのような『人間』を描くことで、マンガの可能性を追求してみたかった」（当時「少年マガジン」副編集長の宮原照夫）という、原作者、マンガ家、編集者が一体となった情熱に支えられた作品だったゆえの結果だろう。

力石の告別式から一週間後の三月三一日、日航機「よど号」を乗っ取った赤軍派九人は「我々は『あしたのジョー』である」と声明して北朝鮮へと去っていった。

「名ゼリフだなぁと思いましたよ」

作家の戸井十月はこう振り返る。

「ジョーは汚れた英雄だった。孤児院上がりのワルが、ボクシングというただひとつの表現手段で燃え尽きるまで戦い抜いていく。今考えると、そのジョーの姿に、今、燃焼できなくて、一体俺は何なんだ、という情念みたいなものを感じていたぼくは、憧れと共感の両方を持っていたんじゃないでしょうか」

「左手に『ジャーナル』（「朝日ジャーナル」）、右手に『マガジン』」という言葉も生まれ、「ジョー」は全共闘学生のアイドルでもあったのだ。

左手に「ジャーナル」、右手に「マガジン」 “真っ白に燃え尽きたい”若者が支持 「あしたのジョー」5年4ヵ月の連載開始！

◀43年1月1日号より、連載第1回目の扉。東京の裏町にぶらりとジョーが現れ、「拳キチ」と呼ばれる丹下段平と出会う。段平は、即座に「ボクサー」ジョーの才能を見抜く。

▼46年3月21日号の扉より。力石を失ったジョーは、ドサまわりの興行試合に身をやつす。そんなジョーの前に、新たなライバル、カーロス・リベラが登場する。

▲48年5月19日号より、連載最終回の最後の場面。バンタム級世界戦の最終ラウンド、渾身のファイトも実らず、ジョーは惜しくも判定で破れる。「真っ白に燃え尽きた」の名セリフを残し、再び立ち上がることはなかった。

▶講談社コミックス第8巻の表紙。ジョーと死闘を演じる力石。両手を下げたノーガード戦法でクライマックスへ。

フォト＋日録で再現する366日

沢田教一

◀**米軍、ケサン基地撤退（7月6日）**北ベトナム軍に77日間にわたって包囲され、約2500人の死傷者を出しながらも冬を越えた南ベトナム北部の戦略拠点ケサンだったが、ついに放棄された。写真は戦闘中の3月2日。

野上透

▶**岡本太郎、万国博「太陽の塔」の一端を披露（7月16日）**テーマ館展示プロデューサーに就任、シンボルゾーンの模型を東京の科学技術庁で公開した。高さ70メートルの塔が会場中央で空に向かってそびえることになる。

共同通信社

▶**交通反則通告制度実施（7月1日）**軽い交通違反を「反則行為」とみなして現場で青切符を切り、処理の簡素化をはかった。最高1万円。10月には15点で免許停止となる「点数制度」も始まった。

読売新聞社

▶**タレント議員、大量進出（7月7日）**参議院議員選挙が行われ、作家・石原慎太郎（写真）が全国区でトップ当選。放送作家・青島幸男、漫才師・横山ノック、大松博文、今東光も上位当選。

毎日新聞社

◀**安田講堂、再封鎖（7月2日）**大衆団交と医学部学生の処分撤回を求める反日共系学生ら約250人がたてこもった。文学部も前月から無期限ストに突入。

昭和43年7月

- **1（月）**●電電公社、東京でポケットベルの業務開始。●郵政省、郵便番号制度を実施。●自動車取得税、地方道路改善目的で新設。●米英ソなど六二ヵ国が核拡散防止条約に調印。
- **2（火）**●陸自少年工科学校で渡河訓練中一三人が水死。
- **3（水）**●厚生省、人工甘味料ズルチンは安全性に問題と、食品添加物指定の削除を公布。
- **4（木）**●警察庁、全国五四大学が紛争中と報告。
- **5（金）**●東大全学共闘会議（議長・山本義隆）結成。
- **6（土）**●小松左京らが日本未来学会の設立発起人総会。
- **7（日）**●第八回参院選（タレント議員が大量進出）。
- **8（月）**●日航、六月の営業収入は過去最高と発表。
- **9（火）**●郵政省、実用化試験局免許切れ後もFM東海放送を継続する東海大学を電波法違反で告発。
- **10（水）**●稲山鉄鋼輸出組合理事長、高炉九社の対米輸出を五五〇万トンとする自主規制措置を発表。
- **11（木）**●文部省、四六年度からの小学校新学習指導要領を告示。社会科の歴史教育に神話を導入。
- **12（金）**●民放初のUHF・岐阜テレビが開局。
- **13（土）**●運輸省、万国博では外国人観光客の宿泊を優先させるよう日本ホテル協会などに通達。
- **14（日）**●大統領は沖縄返還を約束せず、との証言公表。
- **15（月）**●東京地裁、老齢福祉年金を夫婦ともに受給する際の減額制は違憲と判決。
- **16（火）**●測地学審議会、地震予知推進計画を建議。
- **17（水）**●都土木技術研、地盤沈下が山手へ拡大と発表。
- **18（木）**●米軍東富士演習場の管理権が防衛庁へ移行。
- **19（金）**●帯広市の中学八校の給食で一三八三人食中毒。●羽仁五郎『都市の論理』（勁草書房）刊行。
- **20（土）**●ピンキーとキラーズ「恋の季節」発売。
- **21（日）**●富士一〇〇〇キロ耐久レースでトヨタ7優勝。
- **22（月）**●文化庁、屋久島の杉などを天然記念物に指定。
- **23（火）**●『経済白書』（国際化の中の日本経済）発表。
- **24（水）**●神奈川県警、末端価格一億六五九〇万円相当のヘロインを押収、密売容疑で二人を逮捕。
- **25（木）**●警視庁、シンナーを劇物指定にと申し入れ。
- **26（金）**●文部省教科調査官、史実と神話の混同は構わないと発言（30日文部省は発言撤回）。
- **27（土）**●ソ連空軍、チェコ国境近くで演習中と報道。
- **28（日）**●前進座の全座員六二人、河原崎長十郎を除名。
- **29（月）**●日本の女性登山隊がヒマラヤで初の七〇〇〇メートル級イストル・オ・ナールの登頂に成功。
- **30（火）**●夕張市の北炭平和鉱で火災。三一人死亡。
- **31（水）**●蒸気機関車「三四一二」号の引退式挙行。

証言・あの日この日

吉岡　実（49）

6月20日（木）〈夜七時近く、地図をたよりに阿佐ケ谷の唐十郎の棲家をたずねる。弟子たちが玄関で、銅鑼を叩きつつ「ヨシオカミノルサマオナリー」、と怒鳴ったのにはてれる。客がつめかけた部屋で、唐十郎・李礼仙夫妻に迎えられた。すでに、山賊的な酒宴たけなわ〉（吉岡実『土方巽頌』）

酒盛りのメンバーは瀧口修造、土方巽、白石かずこ、石堂淑朗、常田富士男、そして横尾忠則といった人々。やがて電灯が消え、ロウソクの灯のもと、〈唐十郎作詞の唄を、李礼仙が哀切に唄った〉。吉岡はこの翌々日、新宿花園神社で初めて状況劇場の紅テントを見る。出し物は「由比正雪」。唐十郎が正雪、麿赤児が丸橋忠弥を演じた。〈抱腹絶倒とはいかないが、滑稽で壮烈なる劇。四谷シモンの女形の妖しい美しさよ〉　（坪内祐三）

共同通信社

▲**飛騨川に観光バスが転落（8月18日）**午前1時半すぎ、岐阜県白川町の国道41号線で集中豪雨による土砂崩れのため、乗鞍に向かう2台が濁流に転落した。乗客107人のうち、104人が死亡。

▼**原子炉で脳しゅよう治療（8月20日）**川崎市の東京原子力産業研究所で東大医学部脳神経外科教授・佐野圭司らによって日本で初めて試みられた。患者は29歳の女性。中性子線を約10時間照射した。

読売新聞社

読売新聞社

▲**崖崩れでアパート全壊（7月5日）**大雨が続いた北九州市門司区で崖が崩れ、土砂が木造アパート2棟を潰した。住人8人が生き埋めになったが、生後2ヵ月の乳児（写真）ら全員が救出された。

▼**日本初の心臓移植（8月8日）**札幌医大付属病院で和田寿郎教授が執刀。患者は手術後83日目に死亡。手術の是非をめぐり議論が起こる。

清水勲提供

▲**「少年ジャンプ」創刊（8月1日）**集英社が発刊した隔週刊のマンガ雑誌。連載開始のマンガのうち、永井豪の「ハレンチ学園」は、「スカートめくり」の流行を生むなど、小中学生の性的好奇心を刺激してヒットした。

共同通信社

昭和43年8月

- **1（木）**●隔週刊マンガ誌「少年ジャンプ」創刊。
- **2（金）**●九大への米軍墜落機、引き渡しを学生が阻止。
- **3（土）**●児童・生徒の約五四万人に心身障害と文部省。
- **4（日）**●明治神宮外苑がサイクリング用に開放される。
- **5（月）**●東北本線東京―青森間が全線複線化。
- **6（火）**●文部省、私大補助対象から紛争校除外と決定。
- **7（水）**●奈良地検、県立高校長二人らを贈収賄で逮捕。
- **8（木）**●札幌医大教授の和田寿郎、日本初の心臓移植手術を執刀（八三日目に患者死亡）。
- **9（金）**●プロ野球の近鉄の選手が球場での乱闘事件では初めて暴行容疑で書類送検される。
- **10（土）**●阪九フェリー（神戸―小倉間）運航開始。
- **11（日）**●ベ平連主催「反戦と変革に関する国際会議」、五ヵ国二三五人が参加して京都で開催。
- **12（月）**●香港のインフルエンザは新型ウイルスと判明、厚生省がワクチン手配など緊急対策開始。
- **13（火）**●日産、ポルトガルで現地組み立て開始と発表。
- **14（水）**●丸山明宏主演の三島由紀夫版「黒蜥蜴」封切。●ウィーンで七四ヵ国が国連宇宙平和利用会議。
- **15（木）**●宮崎県南郷漁協、種子島宇宙開発センター建設とロケット打ち上げ反対を決議。
- **16（金）**●大阪万国博の入場料が大人八〇〇円に決まる。
- **17（土）**●東京・王子本町の工事現場で永楽通宝・洪武通宝など古銭一万二三〇〇枚が発見される。
- **18（日）**●岐阜県白川町で観光バス二台が土砂崩れのため飛騨川に転落。一〇四人死亡。
- **19（月）**●東京周辺の地価が一年で二一％上昇と判明。
- **20（火）**●ワルシャワ条約機構軍、チェコスロバキアに侵攻。未明、全土を制圧、戒厳令下に。●日米自動車交渉妥結。部品輸入自由化を約束。
- **21（水）**●産業構造審議会、企業の大型合併を容認。
- **22（木）**●日経のベトナム特派員・酒井辰夫、砲撃で死亡。
- **23（金）**●沖縄出身の大学生ら一七人、船で東京・晴海埠頭に到着後、入管手続きを拒否して上陸。
- **24（土）**●仏、ムルロア環礁での初の水爆実験に成功。
- **25（日）**●アルミ需要増で精錬各社が設備拡大と新聞に。
- **26（月）**●米、民主党大会でハンフリーが大統領候補に。
- **27（火）**●三菱重工、日本初のコンテナ船「箱根丸」完成。
- **28（水）**●七年で大空港二〇ヵ所必要と航空政策研提言。●藤竜也と芦川いずみ、結婚。
- **29（木）**●食糧庁、外食券制度と業務用米を廃止。
- **30（金）**●福岡県教委と高教組の高校長着任紛争が解決。
- **31（土）**●東京地裁、家族三人の重病を理由に転勤拒否した会社員への解雇に無効の判決。

UPI・サン

▲**西城正三、王座奪取(9月27日)**ロサンゼルスで行われた世界フェザー級タイトルマッチで、チャンピオンのラウル・ロハスを大差の判定で破り、チャンピオンに。無名だったため、シンデレラボーイと騒がれた。

▼**ザ・モンキーズ来日(9月30日)**「デイ・ドリーム・ビリーバー」が大ヒットした米の人気グループ。10月3日、日本武道館の公演では、女子中高生ら1万人が熱狂した。

読売新聞社

◀**日本人米兵、祖国で脱走(9月16日)**ベ平連は記者会見を開き、清水徹雄米陸軍伍長(右端)が帰休中に脱走し、保護を求めたと発表した。清水は渡米中に選抜徴兵され、この年4月からベトナムに派遣されていた。

毎日新聞社

◀**二つの水俣病は企業の責任(9月26日)**政府は、熊本県水俣湾と新潟県阿賀野川の有機水銀中毒は、工場廃液などが原因の公害病と発表した。写真は患者宅を謝罪してまわるチッソ水俣支社長ら。

朝日新聞社

毎日新聞社

▶**阪神の江夏、奪三振新記録達成(9月17日)**甲子園球場での対巨人戦7回表、王貞治を354個目の三振に仕とめ、西鉄・稲尾和久の記録を更新して1シーズン奪三振日本記録を作った。20歳の江夏豊はこの年、401個の世界記録樹立。

WWP

▲**故ケネディ米大統領未亡人、ジャクリーヌ再婚(10月20日)**ギリシャの大富豪、アリストテレス・ソクラテス・オナシスとの結婚式が、スコルピオス島の教会で行われ、豪華ヨットで地中海へ新婚旅行に出発した。

昭和43年9月

1(日)●谷川岳で三件の転落事故が続発。三人死傷。
2(月)●北海道百年記念祝典、開催。
3(火)●アジア初の国際人類学民族学会議、開催。
4(水)●ザ・フォーク・クルセダーズ、解散。
●日大占拠学生一三二人、排除され全員逮捕。
5(木)●サラリーマンの所得税負担率が初めて五%を割り四・九%に、と国税庁調査。
6(金)●東名高速で中央分離帯の防護柵設置工事開始。
7(土)●東京の銀座みゆき通り歩道の赤煉瓦敷設・水銀灯設置の完成記念パレードが行われる。
8(日)●コンピュータ技術者の引き抜き激化と新聞に。
9(月)●東大医学部、都内数カ所で極秘に卒業試験。
10(火)●ハワイ移民一世、明治百年式典のため来日。
11(水)●仙台市議会に市電廃止反対の東北大生ら乱入。
12(木)●福岡市の中国オートバイショーで曲乗り車が客席に飛びこみ、運転手と観客七人負傷。
13(金)●全国社会福祉協議会、七〇歳以上の「寝たきり老人」は二〇万人以上と発表。
14(土)●プロ野球広島の外木場義郎、完全試合達成。
●藤純子・高倉健主演「緋牡丹博徒」封切。
15(日)●高山祭の屋台を展示する高山屋台会館が開館。
16(月)●ベ平連、米国で徴兵されベトナム戦争参加の日本人米兵が脱走し保護を要請と発表。
17(火)●日本初のロケットSB2A型八号機打ち上げ。
18(水)●経営陣の内紛続く三島市の富士見丘女子短大で正門にトラック一台分の牛糞がまかれる。
19(木)●警察庁、バリケード封鎖は八大学と報告。
●高岡市の日本ゼオン工場で爆発。三人死亡。
20(金)●日銀、銀行への窓口規制の撤廃を決定。
21(土)●福島大自治会、学長退陣を要求しストに突入。
22(日)●反安保デモで学生ら一九五人が米軍立川基地侵入などで逮捕される。
●ソ連「ゾンド五号」、初の月往復飛行に成功。
23(月)●台風一六号が沖縄・宮古島を直撃。同島で三人死亡、二二〇三戸全半壊。
24(火)●食糧庁、低品位米の自由販売を事実上認可。
25(水)●東京の放射一号線(都市計画幹線街路)、開通。
26(木)●厚生省、二つの水俣病を公害病と認定。
27(金)●西城正三、世界フェザー級のタイトル獲得。
28(土)●都営トロリーバスがすべて廃止される。
29(日)●四日に日大で投石を受けた機動隊員が死亡。
30(月)●日大全共闘が古田会頭と大衆団交。会頭、自治弾圧を自己批判(10月3日確約書破棄)。
●米ロックグループ、ザ・モンキーズ来日。

読売新聞社

毎日新聞社

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲**星条旗にこぶしで抗議(10月16日)**メキシコ五輪の陸上男子200メートルの表彰式で、優勝した米国のスミスと3位のカーロスは、「黒人の団結」を示す黒い手袋をつけ、米国内の黒人差別問題に抗議した。

▲**国際反戦デー、新宿騒乱事件に(10月21日)**国際反戦デーのデモや集会が全国約600カ所で高まりを見せる中、反日共系全学連の学生は、都内各所で警官隊と衝突。新宿駅では駅が占拠され、大混乱に。22日午前零時15分、騒乱罪が適用された。

▼**連続ピストル射殺事件(10月11日)**東京プリンスホテルのガードマン射殺を発端に、京都、函館、名古屋で犯行が続き、広域重要事件第108号に指定された。翌年4月7日、19歳の永山則夫を逮捕。写真は第1現場のホテル敷地内。

▼**カネミ油症事件(10月)**カネミ倉庫製油部の米ぬか油で、腰痛や吹き出物などの中毒患者(写真)が続出。福岡・大分・長崎県は販売中止を命令したが、患者は1万人を超えた。原因は製油中に混入した有機塩素剤。

共同通信社

◀**川端康成にノーベル文学賞(10月17日)**『雪国』『千羽鶴』『古都』などの作品が日本人の心の精髄を表現しているとして、初の文学賞受賞決定。写真は翌日、招待状を持って川端邸を訪れたスウェーデン大使(右)と。

朝日新聞社

読売新聞社

昭和43年10月

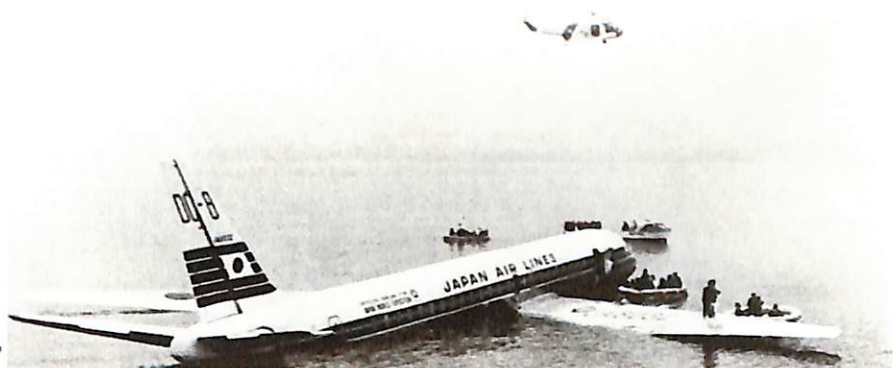
1(火)●交通違反点数制度実施。処分は翌年から。
●国鉄、速度向上・本数増加で全面ダイヤ改正。
2(水)●大空真弓と勝呂誉、結婚。
●メキシコシティで「言論と集会の自由」を求める集会(3日、学生らと軍隊衝突)。
3(木)●文部省、中卒資格試験の受験資格撤廃を決定。
4(金)●東京・飯田橋駅前に都内最長の歩道橋完成。
5(土)●国鉄、事故続きで混乱したダイヤ回復のため六日にかけ貨物列車約二〇〇〇本を運休。
6(日)●水俣病患者家庭互助会、補償請求額を決定。
7(月)●阪神―巨人戦(9月18日)の乱闘で、阪神のバッキー投手と巨人の荒川コーチに罰金刑。
8(火)●東京銀行、パリに初の現地法人銀行設立。
9(水)●正倉院宝物が八年ぶりに秋季定例開封。
10(木)●阪神の江夏豊、奪三振四〇一個の世界記録。
11(金)●東京でガードマン射殺される(14日京都、26日函館、11月5日名古屋で射殺事件)。
12(土)●岡本喜八監督「肉弾」封切。
●大館市の駅前繁華街で大火。二六三棟全焼。
●メキシコ五輪開幕。
13(日)●東京・新宿で日本初の都市有線テレビ「日本ケーブルビジョン放送網」が業務開始。
14(月)●三宅義信・義行兄弟、メキシコ五輪重量挙げフェザー級で金・銅メダル獲得。
15(火)●カネミ倉庫に営業停止命令(カネミ油症事件)。
16(水)●メキシコ五輪男子二〇〇㍍表彰式で米黒人二選手が黒手袋で黒人差別への抗議を表明。
17(木)●川端康成、ノーベル文学賞に決定。
18(金)●外務省秘密文書持ち出し事件(42年10月)に関し、元北朝鮮工作員に懲役一年の実刑判決。
19(土)●東京の中卒進学率は八七%で戦後最高と判明。
20(日)●ジャクリーヌ・ケネディ、オナシスと再婚。
21(月)●全学連の一五〇〇人が新宿駅を占拠、群衆一万人以上が東口駅前を埋める(新宿騒乱事件)。
22(火)●農協中央会、自由米反対・食管堅持を決定。
23(水)●政府主催の明治百年記念式典開催。
24(木)●相模女子大で学生らに軟禁された学長が入院。
25(金)●八海事件の第三次上告審で四被告全員に無罪。
26(土)●京都市での自衛隊パレードで戦車に投石。
27(日)●メキシコ五輪閉幕。日本は金一一個で三位。
28(月)●新宿騒乱事件逮捕者中一三人が高校生と判明。
29(火)●政府、ドル防衛で米債券一億ドル購入申し入れ。
30(水)●警察庁、業者にシンナーの販売規制を要望。
31(木)●ジョンソン米大統領、北爆の全面停止を発表。

▲**屋良主席誕生（11月11日）** 沖縄初の公選主席選挙は、革新共闘会議推薦の屋良朝苗（中央）が、自民党の西銘順治に3万票の差で当選。本土復帰後、初代県知事もつとめた。

読売新聞社

時事通信社

▲**東大紛争に母の訴え（11月21日）** 本郷の東大正門前で、学生の母親十数人がキャラメルを配り、学内にビラを貼って、激突を避けてと学生たちの自重を呼びかけた。

朝日新聞社

▲**集団失神で演奏中止（11月10日）** 日比谷公会堂でのグループサウンズ「オックス」ファンのつどいで、演奏中に興奮しすぎた女子中高生約30人が次々に失神、なかなか意識の戻らない15人が病院に運ばれた。この騒ぎに主催者側はつどいを中止した。

◀**ニクソン、第37代米大統領に（11月6日）** 北爆停止声明などが功を奏し、民主党のハンフリー候補を大接戦のすえに下した。写真は当選後初の記者会見で、勝利のVサインをあげるニクソン。

WWP

▼**日航機「志賀号」、海上に不時着（11月22日）** 計器故障からサンフランシスコ空港への着陸に失敗し、湾上に不時着したが、水深が浅く乗員・乗客107人は全員無事だった。

WWP

昭和43年11月

1（金）●防衛庁、次期主力戦闘機にF4Eファントムの採用を決定。
●東大評議会、大河内一男学長の辞任を承認。
2（土）●神戸市有馬温泉で旅館が火災。三〇人死亡。
3（日）●東日本初のUHF・北海道テレビ放送、開局。
4（月）●東大文学部で学生と林健太郎学部長との団交開始（12日まで一七三時間軟禁）。
●歌謡番組「夜のヒットスタジオ」放映開始。
5（火）●米大統領選挙（6日共和党のニクソンが当選）。
6（水）●警視庁、最高裁電機設備工事関連汚職で最高裁経理局営繕課など四ヵ所を家宅捜索。
7（木）●全学連の二〇〇〇人が首相官邸突入をはかる。
8（金）●慶應義塾図書館など二〇件が重要文化財指定。
9（土）●英伊合作映画「ロミオとジュリエット」封切。
10（日）●オックスの演奏、失神騒ぎで中止に。
●琉球政府主席選挙（11日屋良朝苗当選）。
11（月）●大阪で学生運動の高校生一五人の処分発表。
12（火）●プロ野球ドラフト会議。阪神は田淵幸一、広島は山本浩二、中日は星野仙一を一位指名。
13（水）●愛知県渥美町の護岸工事現場で九人生き埋め。
14（木）●皇居新宮殿の落成式挙行。
15（金）●都営地下鉄浅草線の西馬込―押上間が全通。
16（土）●地婦連が「百円化粧品運動」開始、と新聞に。
17（日）●核家族が全世帯の五五・四％と厚生省発表。
18（月）●大学問題懇談会（座長・森戸辰男）が初会合。
19（火）●嘉手納基地でB52が爆発。一三九戸に被害。
●日本電気と日本板硝子、光ファイバー開発。
20（水）●名大医学部、教授選考委員会への学生参加を認める新内規要綱を決定。
21（木）●財政制度審、食管・国鉄改善策を蔵相に報告。
22（金）●日航DC8機、サンフランシスコ湾に不時着。
●東大・日大闘争勝利総決起集会。二万人参加。
23（土）●今村昌平監督「神々の深き欲望」封切。
●東大駒場祭に「とめてくれるなおっかさん」のポスター（橋本治・作）。
24（日）●日大紛争に関連して日大生六人逮捕。
25（月）●地下鉄池袋駅でラッシュ時に禁煙タイム実施。
26（火）●労働省調査で農家女性の半数近くに農外収入があり、「三ちゃん農業」に変化、と新聞に。
27（水）●自民党総裁に佐藤栄作が三選される。
28（木）●国民生活研究所、『団地サラリーマンの小遣い白書』を発表。小遣い一日約二六〇円。
29（金）●北九州市、カネミ油症事件のカネミ倉庫告発。
30（土）●全国学生相撲大会開催（横綱に日大、輪島博）。

▲**藤猛、タイトル失う（12月12日）** 蔵前国技館でのプロボクシング世界ジュニア・ウエルター級タイトルマッチは、挑戦者ローチェの技巧が藤の強打を完封。10回、コーナーから立てずKO負けした。

読売新聞社

毎日新聞社

▲**東大入試やめないで（12月14日）** 入試の実施が危ぶまれる中、東京・神田の駿台予備校の生徒約200人は、「入試の完全実施」を求めて2キロ離れた東大正門までデモ行進（写真）したが、29日文部省は、全学部の入試中止を決定した。

読売新聞社

▶**ボーナスサンデー、ごった返すデパート（12月8日）** イザナギ景気を反映する総額2兆円のボーナスに、都内のデパートはどこも超満員。池袋（写真）では館内に「一方通行」の標識も。

WWP

▶**「アポロ8号」、月の有人周回飛行へ（12月21日）** この日打ち上げられた宇宙船は、24日、月の周回軌道に乗り、3人の乗組員は人類として初めて100キロの距離から月を観察。27日、太平洋上に着水。

▲**宝籤、初の1等1000万円（12月16日）** 昭和22年に100万円になった1等賞金が、ついに1000万円にアップし、どこの売り場も人の波。まとめて100枚買う人はザラで、2日間で9割が売れた。

読売新聞社

▼**日本隊、初めて南極点到達（12月19日）** 第9次南極越冬隊の村山雅美隊長（後列左から4人目）らの踏査旅行隊は、9月28日に昭和基地を雪上車で出発、2570キロを走破して南極点に到達した。

共同通信社

昭和43年12月

1（日）●那覇市長選（社会大衆党の平良良松当選）。
2（月）●川崎重工・川崎航空機工業・川崎車両が合併書に署名（44年4月川崎重工発足）。
●住友銀行、オンラインでの「カード預金」開始。
3（火）●日米タラバガニ協定妥結。日本の漁獲量半減。
4（水）●「体操の女王」チャスラフスカ来日。
5（木）●大学・短大生が一五〇万人突破と文部省発表。
6（金）●警視庁、『フーテン白書』発表。都内の「通勤フーテン」に対し上京組は「観光フーテン」。
7（土）●那覇市で「いのちを守る県民共闘会議」結成。
8（日）●マンガの同人誌が「第三期黄金時代」と新聞に。
9（月）●屋良琉球政府主席、佐藤首相と会談。
10（火）●東京都府中市で三億円強奪事件。
11（水）●文部省と総理府、学歴に関する世論調査結果を発表。男子の親の五二％が大学進学希望。
12（木）●レコード大賞に黛ジュン「天使の誘惑」決定。
13（金）●科技庁、相模灘海底への地震計設置計画発表。
14（土）●駿台予備校生が東大入試実施を求めるデモ。
15（日）●阪大で徹夜団体交渉の教養学部長が倒れ入院。
●吉本隆明『共同幻想論』（河出書房新社）刊行。
16（月）●一等一〇〇〇万円の宝籤が売り出される。
17（火）●日本サラリーマン・ユニオンが結成される。
18（水）●法制審議会、企業秘密漏示罪の新設を決定。
19（木）●南極越冬隊の村山雅美隊長ら一一人、日本人として初めて南極点に到達。
20（金）●前年の企業交際費七〇〇〇億円と国税庁発表。
21（土）●米、「アポロ八号」打ち上げ。
22（日）●沖縄放送協会、沖縄本島でテレビ本放送開始。
23（月）●米、調布飛行場返還など在日米軍基地・施設五〇ヵ所の整理・縮小案を提示。
24（火）●米映画「トラ・トラ・トラ！」撮影中の黒澤明監督、二〇世紀フォックスから解任通告。
●「アポロ八号」、史上初の月の有人周回飛行に成功。初めて月面の様子をテレビ中継。
25（水）●東大法学部学生大会、スト解除を決議。
26（木）●高校進学率七六・七％で男女差なし、東京は男女とも九〇％超えると文部省発表。
27（金）●京都国立近代美術館で、ロートレック作「マルセル」が盗まれる（51年大阪で発見）。
28（土）●イスラエル軍、ベイルート空港奇襲。二日前のパレスチナ人による旅客機破壊への報復。
29（日）●四四年度の東大、東教大の入試中止と決定。
30（月）●福田蔵相、次期戦闘機F4Eの国産化を承認。
31（火）●ソ連の超音速旅客機Tu144、初飛行成功。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語
子ども界にも「ハレンチ」蔓延

本来の破廉恥は恥を恥とも思わないこと、すなわち恥知らずを意味するが、この年には若者たちの間でイカす、カッコいいといった意味で大流行した。さらに永井豪のマンガ「ハレンチ学園」が「少年ジャンプ」で始まると、そこで演じられるスカートめくりが幼稚園や小学校にまで蔓延し、文字どおりハレンチな行為が一大社会現象となった。

「ノンポリ」。ノン・ポリティカルの略で、学生運動や政治運動に無関心な学生のこと。大学がスト中を幸いバイトや就職活動に精を出し、何かといえば「関係ない」のひとことですませることでも共通していた。同じ頃「ノンセクト」という言葉も使われたが、こちらは学生運動や政治には大いに関心はあるが、これという党派に属さないことで、中身はまったく違う。

「失神」。女優の応蘭芳が「私、セックスのたびに失神するの」と語ったことから失神女優と呼ばれ、失神が流行した。グループサウンズの「オックス」もメンバーが歌いながら失神、それを見ていたファンも連鎖反応で失神するなど、失神は〝行動〟としても流行した。

ファッション
春夏のパリ・モードはギャング・ルックで

一九六八年春夏のパリ・モードは一九三〇年代のアメリカがテーマになっている。当時のアメリカは禁酒法が敷かれ、アル・カポネなどのギャングが横行した時代。その頃、ギャングの情婦として悪名をとどろかせたボニーという女性がいたが、ディオールもサン・ローランもボニー・ルックをカーディガンやスーツに取り入れている。

なぜ、こんなギャング・ルックがパリ・モードに登場したか？ その理由として、ニューヨークの流行を取り入れないとパリのファッションが売れなくなったことがあげられる。すでにアメリカではボニー・ルックをはじめとするギャング・ルックが若者の人気を呼んでいる。パリのデザイナーたちはその流行に逆らえなくなったのだ。

（「読売新聞」大阪版・三月四日）

CM100年

ひと味ちがいます

ポスター「ひと味ちがいます」——タケヤみそ（竹屋）タレント・森光子

マンガ
不気味がウリ少女妖怪マンガ

貸本屋の棚に妖怪変化が横行している。「少女スリラーもの」と呼ばれるマンガ単行本で、最近、男の子向けのものなどを抜いて、マンガ界の主流にのし上がった。このマンガ、タイトルも「餓鬼娘」「蛇塚の死霊娘」「少女白髪鬼」など、教育ママが読んだら卒倒しそうなものばかり。しかもかわいげもユーモラスなところも皆無、底意地が悪く、なんとも薄気味が悪い。

貸本用マンガ本は毎月一五〇～二〇〇点くらい出版され、その六割がこの手の少女スリラーだという。三年前スリラーものに火をつけた「週刊少女フレンド」では「悪影響を考えて」人気作家の連載を断った。が、貸本界は今や百鬼夜行だ。

（「朝日新聞」七月二一日）

北海道新聞

▲膝上まである超ミニ用ブーツ。

社会
アメリカにお目見え女性専用・長電話用ボックス

このほどアメリカのサンディエゴに、「女性のための長電話専用・男性のご使用お断り」と大書した公衆電話ボックスが一二〇台設けられた。

電話会社が「長電話は貴女の魅力を半減させます」と、つねにPRしているのに当地のキリスト教婦人団体が反発、メンバーたちが募金に駆けずりまわり、集めた金で一二〇台の公衆電話を買い取り長話専用として全女性に開放したのだ。女性たちには、大好評。

（「平凡パンチ」九月三〇日号）

▲つげ義春のマンガ「ねじ式」。6月発行の「漫画ガロ」増刊号に掲載。不思議なイメージの展開が話題を呼ぶ。

三面記事
初恋もあった顔かと……

〔千葉発〕明治から一〇〇年たったが、全国には満一〇〇歳のご老人が九九人いる。その中でシャレっ気たっぷりなのが千葉県の諸田つやのさん（慶応三年一月三日生まれ）。この人は実に色っぽい川柳を詠む。

初恋も　あった顔かと　しわをなで

恥ずかしい　一〇〇の老婆に文がくる

第二の句は京都にいるボーイフレンドの鏑木政治さん（八四）のことをうたったもの。鏑木さんとのやりとりには二〇歳の娘の恥じらいが感じられる。

「会えばさほどに話もないが
帰りゃまどろむ夢にまで
恋じゃなし、一〇〇の老婆がなぜ
このように
京のあなたを慕うやら
西と東と別れちゃおれど
心通わす窓の月」

と諸田さんが詠めば、

「情こもったお手紙見れば
飛んで行きたい主のそば
もろた手紙は
つやのよい返事
胸のどうきがとまらない」

と鏑木さんが受ける。諸田さんは八九歳の男性ともこんな文通を続けている。

（「新評」二月号）

時事通信社

▲明治百年記念の大銀座祭。写真は10月19日夜の「光のパレード」。

はやり歌

ブルー・ライト・ヨコハマ

作詞　橋本　淳
作曲　筒美京平

街の灯りが　とてもきれいね
ヨコハマ　ブルー・ライト・ヨコハマ
あなたとふたり　幸せよ
いつものように　愛の言葉を
ヨコハマ　ブルー・ライト・ヨコハマ
私にください　あなたから
歩いても　歩いても　小舟のように
私は　ゆれて
ゆれて　あなたの腕の中
足音だけが　ついて来るのよ
ヨコハマ　ブルー・ライト・ヨコハマ
やさしいくちづけ　もう一度
歩いても　歩いても　小舟のように
私は　ゆれて
ゆれて　あなたの腕の中
あなたの好きな　タバコの香り
ヨコハマ　ブルー・ライト・ヨコハマ
二人の世界　いつまでも

日本コロムビア提供

▲いしだあゆみの独特の歌いぶりで大ヒット。翌年レコード大賞作曲賞受賞。

恋の季節

作詞　岩谷時子
作曲　いずみたく

忘れられないの　あの人が好きよ
青いシャツ着てさ　海を見てたわ
私ははだしで　小さな貝の舟
浮かべて泣いたの
わけもないのに
恋は　私の恋は
空を染めて　燃えたよ
死ぬまで私を　ひとりにしないと
あの人が言った　恋の季節よ
ルルル………
＊恋は　私の恋は
空を染めて　燃えたよ
夜明けのコーヒー
ふたりで飲もうと
あの人が言った　恋の季節よ
（＊繰り返し）
恋の季節よ　恋の季節よ

キングレコード提供

▲ピンキーこと今陽子が大柄な体をパンタロン・ルックに包み、発売2ヵ月で40万枚が売れた。

宇宙
月世界の法第一号は売春禁止法

アメリカの宇宙マニアが集まって結成された宇宙法治連盟によって、月世界での法律第一号が作成され、世界各国の政府に通達された。その法律とは、「月世界では、いかなる形にせよ、売春を禁ずる」という売春禁止法。月世界はほぼ完全な無菌状態だから、いったん病原菌が持ちこまれたら広がるのが早くて大変なことになるというのが法律を制定した理由。

ソ連だけはこの連盟に加入していないので、と会員たちは心配しているという。

（「ムーブメント」九月号）

時事通信社

▲4月6日、「ローラーゲーム」のテレビ放映が始まった。スピードと乱闘シーンが人気。

考現学
女性専用「出血サービス」街の珍看板、珍ちらし

街の看板やちらし、張り紙にはいろんな珍文句が記されている。その中からいくつかの例を——。

ある温泉町のパチンコ店の看板には「女性専用台あり、本日出血サービスデー」と書かれていて、旅館の浴衣を着た女性たちが笑いこけながら通りすぎて行った。

繁華街の裏通りにある旅館の門柱には「ご婦人二人連れ歓迎」と書いた札が掛かっている。そのうえ、その筋に詳しい人によると、この旅館の各部屋に備えてある電話には「外部と連絡なさっても盗聴はいたしません」と記した札まで貼ってあるそうだ。この言わずもがなの真面目さは、おかしさを通りこして不気味。

ゲイバーの並ぶ通りに、バーがあり、ホステスはホテルもOKと評判。その店には「当店は純女性ばかりです」と書いてある。不純な店の純女性という点がおかしい。

（「女性セブン」九月四日号）

▲日本で初のカセットレコーダーを発売したアイワが、3月、ラジオつきカセットレコーダーを新発売。

この年の初もの
東京タワーで発売東京の空気の缶詰

●ラジオ・グラス　双眼鏡の脇に小型ラジオを組みこんだもので、もちろん競馬ファン向け。イヤホーンつき三〇〇〇円。

●屋上洋酒ガーデン　ビールだけでなく洋酒からカクテルまでそろっており、ハワイアンのバンドつき。大阪・曽根崎に誕生。

●セクシー下着の専門店　東京・新宿にオープン。パンティーとブラジャーだけで二〇〇種類。

世界の動き

突如、62万人のワルシャワ条約機構軍が侵入！ 戦車に蹂躙された「プラハの春」229日

▲8月21日朝、プラチスラバの大学前広場で、ソ連軍戦車の前に立ちはだかり、「私を撃て！」とばかりに胸を開く市民。この写真は、世界中にチェコの悲劇を訴えかけた。 ユニフォト プレス

八月二〇日午後一一時、ソ連軍をはじめとするワルシャワ条約機構軍が突如国境を越えてチェコスロバキア国内に侵入を開始した。「人間の顔をした社会主義」をめざした自由化の波はせきとめられ、ソ連が求める「正常化」の中で、チェコスロバキアの国民は再び長い沈黙を強いられることになった。

▶プラハを制圧したソ連軍に対し、市民たちは、「プラハの春」がつちかった“言論の力”をもって抵抗した。 Black Star／PPS

ワルシャワ条約機構軍 チェコスロバキアを制圧

八月二一日未明、プラハ市民は轟々たる戦車の地響きに眠りを破られた。

ソ連国防次官パブロフスキーを司令官とするソ連、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、東独の五ヵ国、六二万人の軍隊、一五〇〇台もの戦車が“寝こみ”を襲い、盟友チェコスロバキアの全土を蹂躙したのだ。

プラハ放送は、二一日未明、いち早く「チェコスロバキア共産党中央委員会幹部会は共和国の全市民に対し平静を保ち、侵入軍に抵抗しないよう訴える」との声明文を発表したが、市民の怒りはおさまらなかった。午前五時すぎからバーツラフスケー広場には続々と人が集まり、国旗を振りかざしながら口々に「自由」「ドプチェクはどこにいる」などと叫び、素手のまま戦車に飛び乗る勇敢な若者も現れた。

「人間機関車」の異名をとる著名な長距離走者エミル・ザトペック（四五）が、鼻先にソ連軍戦車の銃身を突きつけられながら数百人の市民に向かって「爆撃機や戦車が友好のしるしとは思えない」と演説する一幕もあった。

街のいたるところで、弾薬を積んだソ連のトラックや戦車の行く手を阻むための電車やバスが燃え上がり、侵入軍は機関銃、カービン銃で威嚇を繰り返した。

死傷者も続出した。プラハ放送局を占拠しようとするソ連軍戦車の発砲で三〇人が殺害されるなど、一連の衝突で五〇人が死亡したと言われる。

この日、ドプチェク共産党第一書記（四七）らの指導者は逮捕され、モスクワに連行された。これに対しチェコスロバキア共産党は秘密裡に臨時党大会を開き、侵入軍の撤退、指導者の釈放などを要求する宣言を採択した。そしてスボボダ大統領はモスクワに赴き、連れ去られていたチェコスロバキア政府首脳も加わり、二三日から二六日にかけてブレジネフらソ連首脳との交渉が始まった。

その結果、ドプチェク政権は承認されたが、社会主義諸国の団結とソ連が要求する国内「正常化」を約束させられ、二九日にはこれを受けて検閲法が復活、地下放送を続けてきたチェコスロバキア放送も活動停止に追いこまれるなど、自由化政策に大きな歯止めがかけられた。

あえなく自由化は頓挫 短かった「プラハの春」

チェコスロバキアが自由化に向けてせきを切ったのは、この年の初めであった。一月五日、ドプチェクが共産党中央委員会第一書記に選出されると、市場経済の導入、各種組織の自由な活動、言論の自由、海外渡航の自由など、大胆で急進的な政策を次々と打ち出した。

六月二七日には「リテラールニ・リスティ」のほか日刊三紙に、民主化を呼びかけるいわゆる「二千語宣言」が発表された。それは急進的な作家、ルドビーク・バツリークが、労働者、農民、サラリーマン、学者、芸術家、そのほかすべての人のものとして起草し、各界、各階層の急進派七〇人が署名したもので、そこには「我々はこの体制を人間的なものにするという意図をあくまでなしとげなければならない。そのためには言論の自由が不可欠なのである。我々が今年闘いとった唯一のものというべき言論の自由が」と記されてあった。

あまりにも過激な内容に、ソ連は、この「二千語宣言」を反革命と断じ、こうした動きを容認しているチェコスロバキ

▲事態収拾の会談にのぞむドプチェク（右）とソ連首脳。 Black Star PPS

外から見たNIPPON

チャスラフスカが日本で固めた〝冬の時代〟に耐える決意

――佐伯 修

東京とメキシコでのオリンピックで連続して金メダルを勝ち取ったチェコスロバキアの体操選手、ベラ・チャスラフスカ（一九四二～）は、昭和四三年一二月四日、五度目の来日をした。彼女は、すでにメキシコで、引退を表明、結婚してオドロジル夫人となっていたが、チェコ・日本選抜体操大会に出場のため、チェコ・チームの一員としての来日であった。

二八歳の彼女は、七日の名古屋での演技には、発熱で前半欠場したものの、京都、東京では「体操の女王」の名に恥じない華麗な演技を披露した。そして、一一日、東京の日本武道館での演技は、彼女にとって、選手生活最後のものとなったが、演技終了後、チェコ国歌の流れる中、チェコの国旗を見つめた彼女は、一滴の涙も流さず、歯をくいしばっていた。新聞は「かつて見せたことのない〝こわい顔〟」と伝えている。

一体、この時、何が彼女の胸に去来していたのか？ そもそも、今回の来日での彼女は、極端に無口だった。記者団にも、日本語で挨拶したり、銀座のデパートをほめたりといったサービスはあったが、心境らしきものは、何ひとつ語っていない。

▲12月4日、5度目の来日。 共同通信社

彼女の祖国、チェコスロバキアは、この四ヵ月たらず前の八月二〇日、ソ連などワルシャワ条約機構軍の侵入を受け、ドプチェクらの手で行われてきた民主化は挫折、親ソ政権が樹立されていた。チャスラフスカがスポーツ界のスターとなった時期は、ちょうどチェコ民主化の動きと重なる。そして、民主化を支持する「二千語宣言」に署名した彼女は、親ソ政権下でスポーツ界を追放され、五年間、公職につけなかった。

それでも、彼女の収入はゼロではなかった。二冊の著書の印税が、わずかだがあり、うち一冊は、日本で出版された『私は日本が忘れられない』だった。以下同書から。

「日本の選手の中でも、私が特に仲よしになったのは池田敬子さんです。私が日本につくと、池田さんが最初に約束してくれました。『ねえ、スキヤキを食べるときには、私がお招きするわね。でも、その日は一日絶食してね。うんとお腹をすかしとくの……』

それからというものは、二人は顔を合わせるごとに、『スキヤキ』ということばをささやき合うようになりました。それは二人の秘密の合言葉であり、それを言うときは、なにか共謀しているような気持になるのでした」（宮川毅訳）

よき思い出の地日本で、彼女は冬の時代に耐える決意を固めていたのかもしれない。

茂樹青山学院大学教授はこのように語る。

▲10月31日、帰国したプラハで、メキシコ・オリンピックで獲得した金メダルをドプチェクに見せるチャスラフスカ。この後、二人には苦難の歳月が続く。 UPI・サン

アの共産党と政府を非難、大軍の派兵に踏み切ったのである。

「ソ連には、東欧諸国で一番民主化が進んでいたチェコをおさえなければ社会主義体制が崩壊するという強烈な危機意識があったことはもちろんです。その一方では、六六年以後、国内で盛り上がっていた、サハロフら反体制知識人の熱っぽい運動を牽制する意味をも持っていたのです。一年を経てもチェコ国内は反ソ一辺倒でした。街中は〝イワン帰れ〟といった赤や黒のペンキの落書きであふれ、大学構内にはソ連を厳しく非難する壁新聞がそのまま残っていて、民主化への熱気がなお続いていることを実感しました」

当時モスクワ大学の大学院に留学し、ソ連側からチェコ事件を観察、その後一周年を迎えた現地に足を踏み入れた袴田茂樹青山学院大学教授はこのように語る。

毎年五月に開かれる音楽祭から名をとった「プラハの春」は完全に踏みにじられ、ドプチェクは解任された。そしてその後一〇万人にもおよぶソ連軍の駐留が続けられチェコスロバキア国民は「灰色の時代」を迎えることになった。

しかし「二千語宣言」に署名し、その後も撤回の強要を頑強に拒否し続けた女子体操の国民的アイドル、チャスラフスカをはじめ、市民たちの熱い思いは二〇年後の一九八九年に再燃し、民主化を実現、ドプチェクは連邦議会の議長として復活したのである。

アレクサンデル・ドプチェク（1921～92）
チェコスロバキアの政治家。スロバキアのウフロベチ生まれ。一九七〇年、共産党除名後、営林署長となる。八九年、東欧革命とともに復活。

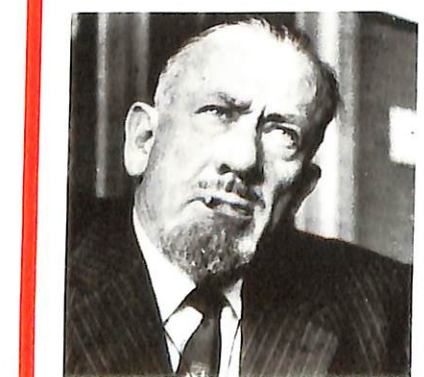
往きて還らぬ

▶1月20日　小島正雄(54)
ジャズバンドのリーダーからラジオ、テレビの司会者として活躍。ダーク・ダックスの育ての親としても有名。

◀8月10日　堺駿二(54)
喜劇俳優。戦前は浅草でシミキンとコンビを組み、戦後はテレビを中心に活躍。次男はタレントの堺正章(左から二人目)。

共同通信社

▲9月21日　広津和郎(76)
小説家。大正6年「神経病時代」で注目され、戦後は「松川裁判」を雑誌に連載、無罪を勝ち取る陰の力となった。

▲12月16日　時津風定次(56)
元横綱双葉山で昭和の相撲界の牽引者。力士時代69連勝をはたし、引退後は理事長として協会の制度改革に尽力。

▲12月20日　J・スタインベック(66)
アメリカの小説家。人間味のある温かい作風で知られ、1939年発表の『怒りの葡萄』でピュリッツァー賞受賞。

▲7月19日　子母澤寛(76)
小説家。幕末もの、股旅ものの名手で『新選組始末記』『父子鷹』などの名作を残した。昭和37年菊池寛賞を受賞。

▼6月1日　ヘレン・ケラー(87)
盲聾唖の三重苦を克服したアメリカの社会運動家。戦後3度来日し、障害者福祉の推進に大きく貢献した。

▲4月25日　万城目正(63)
作曲家。「旅の夜風」(映画「愛染かつら」の主題歌)、美空ひばりの「悲しき口笛」など多くのヒット曲を残した。

▲5月19日　大谷米太郎(86)
実業家。明治44年、20銭を持って上京。力士から身を起こし、一代で大谷重工業、ホテルニューオータニを設立。

▲1月9日　円谷幸吉(27)
東京オリンピックのマラソンで銅メダルを獲得したが、「もう走れません」との遺書を残して自殺した。

▲1月15日　奥野信太郎(68)
戦後、慶大で中国文学を教えるかたわら随筆も発表。座談の名手でもあった。著書に『日時計のある風景』など。

▲1月20日　柳家三亀松(66)
落語家から三味線漫談に転向、お色気たっぷりの都々逸が人気だった。昭和40年度芸術祭で奨励賞受賞。

ミニ事典

1968年のキーワード

読売新聞社

▲国道1号線のダンプカーと小学生。

都市再開発

低層住宅が密集していたり、住宅と工場が混在している市街地を、合理的活用や高度利用がはかれる地域に改造すること。昭和四四年六月三日、都市再開発法が制定され、六月一四日から実施されたが、美濃部都政では、この年一月二〇日、東京の再開発第一号として「戸山ハイツ」の中高層ビル化について入居者らに説明。引き続き、中高層住宅群の建設、工場分散などを推し進めた。

ダンプ規制法

正式には土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法。稼ぎを上げようと、無理な運転を続けて事故を起こすダンプカーが頻出したため法制化された。二月一日施行。ダンプカーの届け出を義務づけ、事故についての使用者責任を認めた。使用者は死傷事故を起こした場合、一定期間の車両使用禁止などが科された。

非核武装宣言アピール

物理学者・湯川秀樹、哲学者・谷川徹三、作家・川端康成らを中心とした知識人五一人が、非核三原則を堅持し、非核武装宣言を決議するよう衆参両院議長に求めた要望書。アメリカの対ソ核抑止力に依存するため、非核三原則のうち「持ちこませず」を曖昧にせざるをえない政府の核政策を非難、全国会議員にも同じ要望書を送付した。

▶谷川徹三。二月二四日、湯川秀樹らとともに、要望書を議長に手渡した。

イザナギ景気

昭和四〇年一一月から四五年七月まで四年九ヵ月間続いた大型景気。この年、日本神話で国生みをした男神イザナギにちなんで名づけられた。経済成長率は神武景気、岩戸景気をしのいで年平均一一・六パーセントに達し、個人消費、民間設備投資、輸出などがバランスよく発展。乗用車、カラーテレビ、クーラーなどの耐久消費財の需要増大は、特にイザナギ景気を支える原動力となった。

ニューシネマ

一九六〇年代後半、おもにアメリカで製作された若者向けの低予算の映画。権威に逆らい、真実の人間的連帯を求める青年たちを生き生きと描き、既成の枠にとらわれない音楽・映像が新鮮だった。二月一四日封切のアーサー・ペン監督、ウォーレン・ビーティ、フェイ・ダナウェイ主演「俺たちに明日はない」などが代表。男女が警官の銃弾をあびて倒れる終幕は若い感性を魅了した。

▲「俺たちに明日はない」はキネマ旬報第1位。

バッジ・システム

自動防空警戒管制組織の略称。目標の探知、敵・味方の識別、追尾、迎撃方法の計算・誘導など一連の防空措置をコンピュータで半自動的に行う装置。手動時に比べ、処理時間が最高一〇分の一に短縮された。三月二九日に完成、日本アビオトロニクス社から防衛庁に引き渡され、翌年三月から正式に運用された。

国際勝共連合

韓国の文鮮明が創始した世界基督教統一神霊協会（統一教会）の政治組織。四月一日結成。共産主義の撲滅と祭政一致の世界反共政府樹立を掲げる。会長は日本統一教会会長の久保木修己が兼任。名誉会長・笹川良一。大学紛争やベトナム反戦運動の拡大を危惧する右翼や親韓派の政治家が結成を支援、文化人や財界人にも支援を呼びかけた。

消費者保護基本法

国民の消費生活の安定と向上を確保し、消費者を保護するための法律。五月三〇日に公布施行。危害の防止や表示の適正化など国や地方公共団体が行うべき施策をあげ、事業者には苦情処理などの責任を課した。また内閣総理大臣を長とした施策推進のための消費者保護会議、基本的事項の調査・審議を行う国民生活審議会の設置も定めた。

大気汚染防止法

工場煤煙や排気ガスなどによる大気汚染を防止するために制定された法律。個別の規制法では四日市公害などの大規模汚染に対応できないため、従来の煤煙規制法を廃し、大気汚染防止に関する総合立法として六月一〇日に公布。しかし、公害対策と経済との調和をはかるとの条項があったため、取締りの徹底ができず、四五年、この条項は削除された。

ノックダウン輸出

部品をひと揃い輸出して、現地工場で組み立てて完成品にする方式。KD輸出。八月一三日、日産自動車がポルトガルで開始と発表。四輪自動車ではヨーロッパで初めてのケースになった。加工技術の吸収や外貨節約を求める東南アジアや中南米諸国ではすでに実施していたが、日本の輸出超過が問題になると、欧米でもその軽減策としてKD輸出が行われるようになった。

光ファイバー

光を伝達する極細のガラス繊維。光学ガラス繊維、オプティカルファイバーともいう。日本ではおもに医療の内視鏡用として研究されていたが、一一月一九日、日本電気と日本板硝子が光通信に使用可能な「集束性光伝送体セルフォック」を共同開発、世界初の実用化に成功した。後、太平洋横断ケーブルに応用、細くて軽いうえ、情報伝達能力は銅線に対し約一〇〇〇倍にも向上した。

日本サラリーマン・ユニオン

サラリーマンの重税反対を掲げて結成された団体。代表理事に小南弘久、江戸英雄、藤井丙午ら。一二月一七日、東京・銀座で発会式を行い、不公平税制の是正、サラリーマンへの減税、退職金課税の限度額引き上げなども訴えていくこととなった。翌年四月には同様のスローガンを持つ全国サラリーマン同盟（代表は中村武志・青木茂）も発足した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1968

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邊裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・フロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順 吉田忠正

●写真協力
エディ・アダムス 井上一郎 今城力夫 九条今日子 沢田サタ 清水勲 但馬一憲 野上透 英伸三 ロナルド・L・ヘーバール ボリス・ヤーロ ジョセフ・ロウ 朝日新聞社 共同通信社 くれせんと CORBIS・BETTMANN 時事通信社 TIME・LIFE デジタルハウス ノーボスチ通信社 PPS Black・Star 北海道新聞 毎日新聞社 ユニフォト・プレス UPI・サン 読売新聞社 ロサンゼルス・タイムス WWP アイワ 浅井企画 京王帝都電鉄 人力飛行機舎 東映 東宝 日活 横尾忠則アトリエ

1969 昭和44年 週刊 日録20世紀 6 24 ¥560 講談社

人類、月面に立つ!

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第18号 6月10日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1969［昭和44年］

●特集
「アポロ11号」宇宙への旅一九五時間 ついに人類が月の表面に立った！／「私、生まれも育ちも葛飾柴又です」 国民的アイドル「寅さん」スタート／GNP五〇兆円の大台突破！ 日本、"世界第二位"に躍進／機動隊八五〇〇人と籠城学生の激突 東大・安田講堂"攻防"の三五時間

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…中ソ国境で武力衝突（3月2日）／東名高速道路全通（5月26日）／原子力船「むつ」進水（6月12日）／ウッドストック・コンサート開幕（8月15日）／ホー・チ・ミン死去（9月3日）／金田、四〇〇勝達成（10月10日）／沖縄返還で日米共同声明（11月21日）

●人物クローズアップ
高倉健、深夜映画館に唐獅子牡丹の旋風

●決定的瞬間
号泣するベトナム女性の悲劇

●美の出会い
箱根彫刻の森美術館オープン

●女たちの肖像…オノ・ヨーコ、ジョン・レノンと結婚／勝者・敗者…"甲子園のアイドル"太田幸司／証言・あの日この日…安藤鶴夫、高橋和巳／20世紀博物館…竹中大工道具館（兵庫・神戸市）／「現場」を歩く…新宿、西口の"反戦フォーク"／外から見たNIPPON…高見山の「流行歌」批評

●ベストセラー…大河ドラマ原作『天と地と』／スターと名場面…シリアスな恋愛ドラマ「心中天網島」／モノ語り'69…女性の必需品「パンティストッキング」

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号（2月18日号）1959［昭和34年］

第2号（2月25日号）1964［昭和39年］

第3号（3月4日号）1945［昭和20年］

第4号（3月11日号）1970［昭和45年］

第5号（3月18日号）1963［昭和38年］

第6号（3月25日号）1958［昭和33年］

第7号（4月1日号）1972［昭和47年］

第8号（4月8日号）1980［昭和55年］

第9号（4月15日号）1976［昭和51年］

第10号（4月22日号）1989［平成元年］

第11号（4月29日号）1960［昭和35年］

第12号（5月6日号）1961［昭和36年］

第13号（5月13・20日号）1962［昭和37年］

第14号（5月27日号）1965［昭和40年］

第15号（6月3日号）1966［昭和41年］

第16号（6月10日号）1967［昭和42年］

■今後の刊行予定

▶第19号（7月1日号）1941［昭和16年］6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ事件●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦開始
▶第20号（7月8日号）1942［昭和17年］6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人強制連行●戦争映画隆盛●ユダヤ人虐殺
▶第21号（7月15日号）1943［昭和18年］7月1日発売
学徒出陣●戦時下のグルメ●戦火に葬られた動物●「伊8号」、帰投す
▶第22号（7月22日号）1944［昭和19年］7月8日発売
神風特攻隊●学童疎開●戦時下の科学技術開発●独軍降伏、パリ解放
▶第23号（7月29日号）1946［昭和21年］7月15日発売
東京裁判開廷●南海道大地震の衝撃●戦後闇市と戦災孤児
▶第24号（8月5日号）1947［昭和22年］7月22日発売
日本国憲法施行●「日曜娯楽版」スタート●新宿で額縁ショー
▶第25号（8月12日号）1948［昭和23年］7月29日発売
美空ひばりデビュー●福井に大地震●朝鮮半島、38度線の悲劇

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀 1968
●「三億円事件」のミステリー 6月17日号
第1巻第17号 通巻17号
平成9年6月17日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
発売所
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604
定価560円 本体533円

雑誌 23703-6/17 T1123703060566
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社